



博覧会開催時における環境の状況について の概要

平成18年3月

財団法人 2005年日本国際博覧会協会

目次

第1章 会場及びその周辺	1
第1節 大気質	1
第2節 騒音・振動	3
第3節 水質	5
第4節 地下水	6
第5節 動物	10
第2章 瀬戸会場	14
第1節 植物	14
第2節 動物	18
第3章 長久手会場	26
第1節 植物	26
第2節 動物	27
第3節 生態系	32
第4章 会場間ゴンドラ	34
第1節 動物	34
第5章 尾張旭駐車場	35
第1節 大気質	35
第2節 騒音	37
第3節 動物	38
第6章 長久手駐車場	39
第1節 大気質	39
第2節 騒音	41
第3節 水質	42
第4節 動物	44
第7章 ながくて南駐車場	46
第1節 大気質	46
第2節 騒音	48
第8章 三好駐車場	49
第1節 大気質	49
第2節 騒音	51
第9章 藤岡駐車場	52
第1節 大気質	52
第2節 騒音	54
第3節 水質	55
第4節 動物	57
第10章 名古屋空港駐車場	58
第1節 大気質	58
第2節 騒音	60

博覧会開催時に行ったモニタリング調査結果は以下のとおりです。

第1章 会場及びその周辺

第1節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

瀬戸会場西側の瀬戸市上之山町地内(上之山町（一般環境）)及び長久手会場周辺の長久手町三ヶ峯

イ 調査結果

表1-1-1 大気の汚染に係る環境基準

物質名	環境基準	摘要
二酸化硫黄 (SO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	大気の汚染に係る環境基準について(昭和48年5月 環境庁告示第35号)
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	二酸化窒素に係る環境基準について(昭和53年7月 環境庁告示第38号)
一酸化炭素 (CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	大気の汚染に係る環境基準について(昭和48年5月 環境庁告示第25号)
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	大気の汚染に係る環境基準について(昭和48年5月 環境庁告示第25号)

表1-1-2 大気質の調査結果(上之山町(一般環境))

調査項目 調査時期	二酸化硫黄 (ppm)			二酸化窒素 (ppm)			一酸化炭素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値
調査期間	0.005	0.044	0.010	0.016	0.063	0.034	0.4	1.4	0.6	0.034	0.166	0.104

(注) 調査期間は平成17年3月25日から9月25日の185日間であり、3月は25日から31日まで、9月は1日から25日までの調査結果で整理した。

表1-1-3 大気質の調査結果(長久手町三ヶ峯)

調査項目 調査時期	二酸化硫黄 (ppm)			二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値
春季	0.007	0.015	0.008	0.008	0.027	0.015	0.030	0.127	0.044
夏季	0.008	0.017	0.011	0.009	0.037	0.011	0.025	0.135	0.047
調査期間	0.008	0.017	0.011	0.009	0.037	0.015	0.027	0.135	0.047

(注)調査期間：春季・・・平成17年5月24日～30日
夏季・・・平成17年8月24日～30日

2 沿道環境

ア 調査地点

長久手町前熊、瀬戸市石田町及び広久手八草

イ 調査結果

表 1-1-4 (1) 大気質の調査結果（沿道環境：長久手町前熊）

調査項目	二酸化硫黄 (ppm)			二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
春季	0.008	0.022	0.010	0.034	0.076	0.040	0.035	0.097	0.049
夏季	0.006	0.016	0.007	0.027	0.075	0.038	0.040	0.146	0.069

表 1-1-4 (2) 大気質の調査結果（沿道環境：瀬戸市石田町）

調査項目	二酸化硫黄 (ppm)			二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
春季	0.008	0.026	0.011	0.023	0.049	0.031	0.031	0.082	0.044
夏季	0.008	0.018	0.010	0.021	0.055	0.030	0.034	0.148	0.054

表 1-1-4 (3) 大気質の調査結果（沿道環境：広久手八草）

調査項目	二酸化硫黄 (ppm)			二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	調査期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
春季	0.009	0.025	0.012	0.013	0.034	0.018	0.026	0.083	0.038
夏季	0.007	0.015	0.009	0.013	0.035	0.016	0.025	0.099	0.041

(注)調査期間：春季・・・平成 17 年 5 月 24 日～30 日
 夏季・・・平成 17 年 8 月 24 日～30 日

第2節 騒音・振動

1 一般環境

ア 調査地点

瀬戸会場西側の瀬戸市上之山町（一般環境）及び長久手会場周辺の長久手町三ヶ峯（S-2（一般環境））

イ 調査結果

表1-2-1 騒音の調査結果（供用時 一般環境）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)		主音源
			昼間 (55)	夜間 (45)	
瀬戸市上之山町 （一般環境）	市街化調整区域	春季(H17.5.17~18)	50	40	自動車騒音
		夏季(H17.8.23~24)	52	<u>47</u>	自動車騒音及び虫の音
S-2 （一般環境）	市街化調整区域	春季(H17.5.17~18)	53	44	自動車騒音
		夏季(H17.8.23~24)	<u>56</u>	<u>55</u>	自動車騒音及び虫の音

(注)1.時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、夜間を22時から翌日の6時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。
2.表中のアンダーラインを付した値は、環境基準値を超過していることを示す。

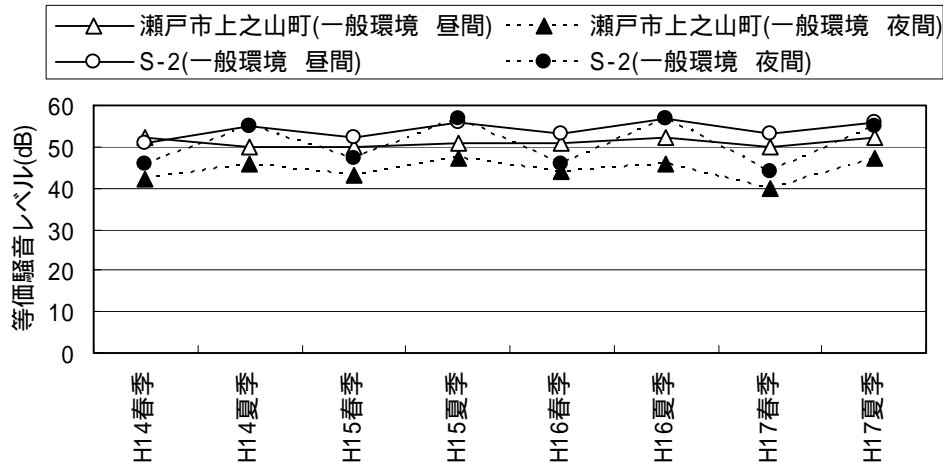


図1-2-1 過去の調査結果との比較（一般環境騒音）

表1-2-2 振動（L10）の調査結果（供用時 一般環境）

調査地点	用途地域	調査時期	振動レベルL10 (dB)	
			昼間	夜間
瀬戸市上之山町 （一般環境）	市街化調整区域	春季(H17.5.17~18)	<30	<30
		夏季(H17.8.23~24)	<30	<30
S-2（一般環境）	市街化調整区域	春季(H17.5.17~18)	<30	<30
		夏季(H17.8.23~24)	<30	<30

(注)1.時間の区分は、昼間は7時から20時までの間、夜間は20時から翌日の7時までの間である。
2.表中の「<30」は振動の測定機器信頼下限値 30dB 未満を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

会場周辺の長久手町前熊、瀬戸市石田町及び広久手八草

イ 調査結果

表 1 - 2 - 3 自動車交通騒音（L_{Aeq}）の調査結果（供用時 沿道環境）

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値 (要請限度値)	調査時期	等価騒音レベルL _{Aeq} (dB)	
				昼間	夜間
長久手町 前熊	市街化調整	主要地方道 力石名古屋線 70,65 (75,70)	春季(H17.5.17~18)	67	61
			夏季(H17.8.23~24)	66	62
瀬戸市 石田町	準住居	県道愛知青少年 公園瀬戸線 70,65 (75,70)	春季(H17.5.17~18)	66	61
			夏季(H17.8.23~24)	67	61
広久手 八草	市街化調整	私道 (一般県道広久手八 草線の暫定供用) 65,60 (75,70)	春季(H17.5.17~18)	55	42
			夏季(H17.8.23~24)	59	<u>61</u>

- (注) 1.時間の区分は、昼間は6時から22時までの間、夜間は22時から翌日の6時までの間である。
 2.対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示し、昼間、夜間の順である。
 3.表中のアンダーラインを付した値は、環境基準値を超過していることを示す。ただし、騒音に係る環境基準の評価は、個別の住居等が影響を受ける騒音レベルによることを基本としており、今回のモニタリング調査における測定のような道路端における測定結果をもって環境基準の適否を評価するものではないが、参考のため記載する。
 4.「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。

表 1 - 2 - 4 自動車交通振動（L₁₀）の調査結果（供用時 沿道環境）

調査地点	用途地域	対象道路 及び 要請限度値(dB)	調査時期	振動レベルL ₁₀ (dB)	
				昼間	夜間
長久手町前熊	市街化調整	主要地方道 力石名古屋線 70,65	春季(H17.5.17~18)	45	42
			夏季(H17.8.23~24)	45	44
瀬戸市石田町	準住居	県道愛知青少年 公園瀬戸線 65,60	春季(H17.5.17~18)	41	35
			夏季(H17.8.23~24)	40	37
広久手八草	市街化調整	私道：一般県道広久手 八草線の暫定供用 70,65	春季(H17.5.17~18)	<30	<30
			夏季(H17.8.23~24)	30	<30

- (注)1.時間の区分は昼間は7時~20時、夜間は20時~翌日7時である。
 2.対象道路欄の数値は要請限度値を示し昼間、夜間の順である。
 3.「要請限度」とは、「振動規制法第16条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車振動の限度を定める省令」で定める自動車振動の限度をいう。

第3節 水質

1 放流先河川の水質

ア 調査地点

香流川の長久手会場下流及び吉田川の瀬戸会場下流

イ 調査結果

表1-3-1 生活環境項目及びその他の項目調査結果

調査項目 及び 単位	調査地点	pH	BOD	SS	DO	大腸菌群数	全窒素	全 燐	n-ヘキサン 抽出物質	全亜鉛	流 量
		-	mg/	mg/	mg/	MPN/100m	mg/	mg/	mg/	mg/	m ³ /s
平均値	吉田川	7.3	0.8	2	7.9	47,000	0.33	0.016	<0.5	0.004	0.007
		7.5	0.9	3	9.8	130,000	0.50	0.019	<0.5	0.005	0.015
		7.1	0.7	1	6.2	790	0.25	0.010	<0.5	<0.003	0.0002
最大値	香流川	7.0	1.8	7	7.3	63,800	1.62	0.123	<0.5	0.015	0.033
		7.2	3.2	12	9.7	220,000	3.23	0.254	<0.5	0.025	0.078
		6.7	0.8	3	6.4	4,900	1.01	0.075	<0.5	<0.003	0.005

表1-3-2 農薬調査結果 （単位：mg/ ）

調査項目等		調査地点	吉田川	香流川	指針値
マラソン (マラチオン)	農薬散布前 (H17.4.15)		<0.001	<0.001	0.01
	農薬散布後 (H17.9.29)		<0.001	<0.001	
TPN	農薬散布前 (H17.4.15)		<0.001	<0.001	0.4
	農薬散布後 (H17.9.29)		<0.001	<0.001	

(注)指針値とは、「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針について」(平成2年 環水土第77号 環境庁水質保全局)及び「公共用水域における農薬の水質評価指針について」(平成6年 環水土第86号 環境庁水質保全局)に示された値である。

第4節 地下水

1 地下水位

ア 調査地点

長久手会場周辺と瀬戸会場周辺の各2地点

イ 調査結果

表 1 - 4 - 1 地下水位調査結果（月平均標高）

単位：m

年月 調査地点		平成 17 年						
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
瀬戸 会場	No.7	102.5	102.5	102.5	102.4	102.5	102.5	102.5
	No.8	112.8	112.6	112.4	112.2	112.4	112.1	112.3
長久手 会場	No.1'	87.4	87.4	87.4	87.5	87.4	87.5	87.4
	No.3	93.9	93.7	93.7	93.5	93.6	93.2	93.3

（注） 調査期間は平成 17 年 3 月 25 日～9 月 25 日の 185 日間であり、3 月は 25 日から 31 日まで、9 月は 1 日から 25 日までの調査結果で整理した。

2 地下水質

ア 調査地点

長久手会場周辺と瀬戸会場周辺の各2地点

イ 調査結果

表1-4-2(1) 地下水質の調査結果(水質汚濁に係る環境基準の項目)

(単位: mg/)

調 査 地 点	瀬戸会場 No.7	瀬戸会場 No.8	長久手会場 No.1	長久手会場 No.2	環境基準値
調 査 年 月 日	H17. 7.22	H17. 7.22	H17. 7.22	H17. 7.22	
カドミウム	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01
全シアン	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されないこと
鉛	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.01
六価クロム	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.05
砒素	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.01
総水銀	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005
アルキル水銀	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されないこと
PCB	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されないこと
ジクロロメタン	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02
四塩化炭素	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002
1,2-ジクロロエタン	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004
1,1-ジクロロエチレン	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	1
1,1,2-トリクロロエタン	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006
トリクロロエチレン	0.003	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03
テトラクロロエチレン	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.01
1,3-ジクロロプロペン	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002
チウラム	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006
シマジン	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003
チオベンカルブ	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02
ベンゼン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01
セレン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	2.6	0.1 未満	0.2	0.3	10
ふっ素	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.8
ほう素	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	1

表1-4-2(2) 地下水質の調査結果(水質基準の項目)

(単位: mg/)

調査地点	瀬戸会場 No.7	瀬戸会場 No.8	長久手会場 No.1	長久手会場 No.2	水質基準
調査年月日	H17. 7.22	H17. 7.22	H17. 7.22	H17. 7.22	
一般細菌(個/ml)	16	74	36	0	100
大腸菌(MPN/100ml)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されないこと
1,4-ジオキサン	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.05
クロロ酢酸	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02
クロロホルム	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.06
ジクロロ酢酸	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04
ジブロモクロロメタン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.1
臭素酸	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01
総トリハロメタン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.1
トリクロロ酢酸	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.2
ブロモジクロロメタン	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03
ブロモホルム	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.09
ホルムアルデヒド	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満	0.08
亜鉛及びその化合物	0.012	0.025	0.010	0.025	1.0
アルミニウム及びその化合物	0.03	0.09	<u>0.37</u>	0.02 未満	0.2
鉄及びその化合物	0.06	0.13	<u>2.1</u>	0.01 未満	0.3
銅及びその化合物	0.004	0.002	0.002	0.010	1.0
ナトリウム及びその化合物	6.7	2.2	17	2.0	200
マンガン及びその化合物	0.005 未満	0.033	<u>0.30</u>	0.008	0.05
塩化物イオン	8.1	6.7	9.8	3.6	200
カルシウム・マグネシウム等(硬度)	14	5.6	<u>420</u>	6.1	300
蒸発残留物	79	34	<u>720</u>	32	500
陰イオン界面活性剤	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.2
ジェオスミン	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.00001
2-メチルイソボルネオール	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.00001
非イオン界面活性剤	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.02
フェノール類	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005
有機物(全有機炭素量)	0.5 未満	0.5 未満	3.0	0.5 未満	5
pH値(水温)	6.0(26.3)	5.2(25.6)	6.9(28.0)	5.3(26.6)	5.8~8.6
味	異常でない	異常でない	異常でない	異常でない	異常でないこと
臭気	異常でない	異常でない	異常でない	異常でない	異常でないこと
色度(度)	1 未満	2	<u>8</u>	1 未満	5
濁度(度)	2	<u>5</u>	<u>5</u>	0.5 未満	2

(注) 表中のアンダーラインを付した値は水質基準値を超過していることを示す。

表 1-4-2 (3) 地下水質の調査結果(農薬調査結果) (単位: mg/)

調査項目等		調査地点	瀬戸会場 No.7	瀬戸会場 No.8	長久手会場 No.1	長久手会場 No.2	指針値
マラソン (マラチオン)	農薬散布前(H17.4.15)		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01
	農薬散布後(H17.9.29)		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	
T P N	農薬散布前(H17.4.15)		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.4
	農薬散布後(H17.9.29)		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	

(注)指針値とは、「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針について」(平成2年 環水土第77号 環境庁水質保全局)及び「公共用水域における農薬の水質評価指針について」(平成6年 環水土第86号 環境庁水質保全局)に示された値である。

No. 1 井戸(博覧会協会の設置した観測用井戸)では水質基準を超えた項目が見られるが、主な項目は減少か同程度の傾向にある。

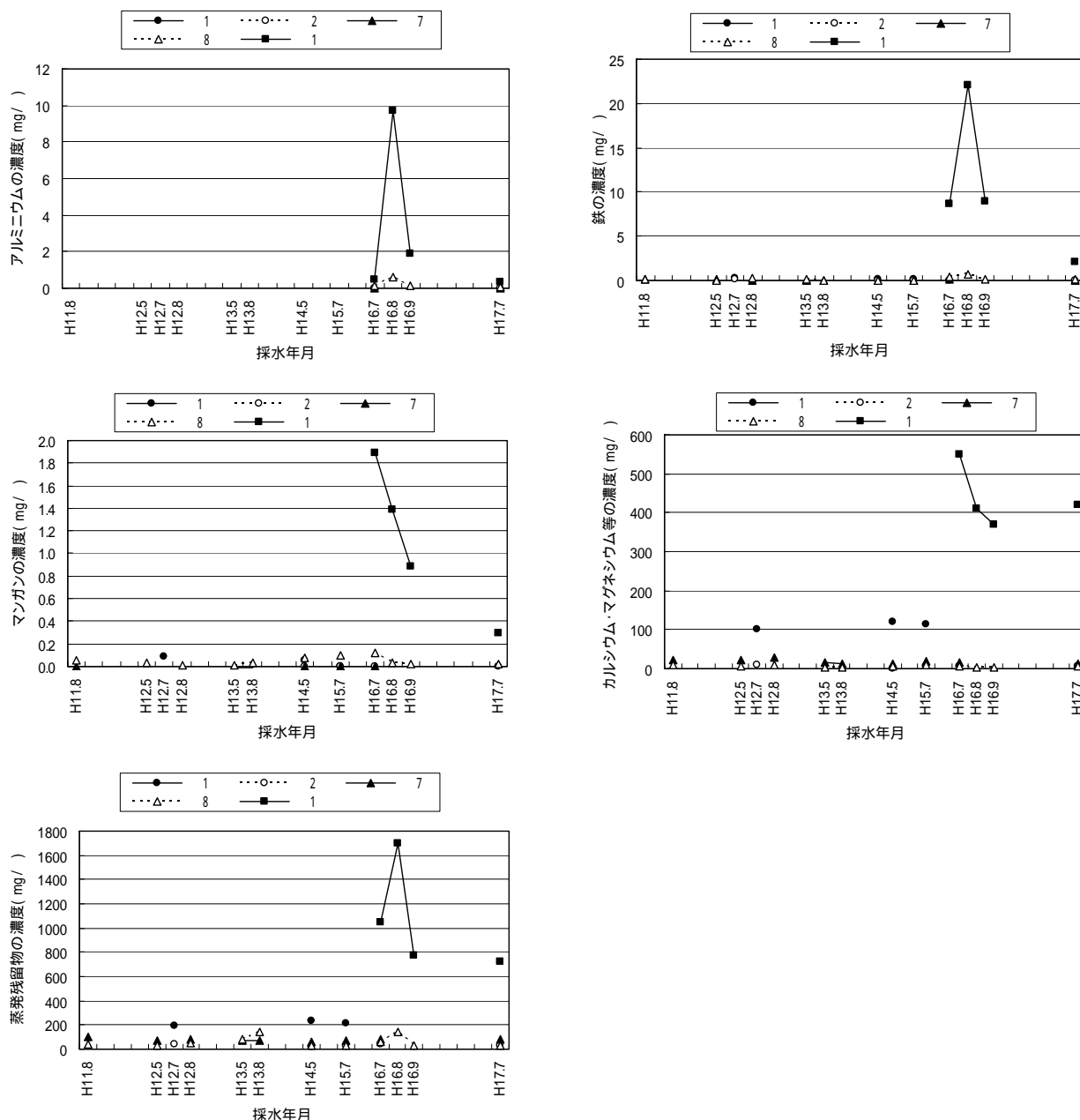


図 1-4-1 過去の調査結果との比較 (水質基準を超えた主な地下水質項目)

第5節 動物

1 オオタカ

ア 調査地点

会場及びその周辺

イ 調査結果

表 1-5-1(1) 平成 17 年度定点及び踏査調査結果（営巣地 D の繁殖状況）

日程	確認状況
4/19～4/21	営巣地への餌運搬を確認
5/16～5/18	営巣地への出入り及び巣材運搬を確認
6/2	巣内雛 2 羽を確認
6/10	巣内雛 2 羽を確認
6/17	巣内雛 1 羽を確認
6/21～6/23	営巣地への餌運搬を確認
7/6～7/8	営巣地付近で幼鳥の鳴き声を確認
7/20～7/22	巣より約 200m の範囲で幼鳥の 1 羽飛翔を確認
8/1～8/3	営巣地周辺において幼鳥は確認できなかった。

注) 4/19～21、5/16～5/18、6/21 以降の確認内容は、定点観察調査によるもの

表 1-5-1(2) 平成 17 年度定点及び踏査調査結果（営巣地 F の繁殖状況）

日程	確認状況
4/19～4/21	営巣地 F 2 より約 440m 北東の森林内で鳴き交わし
5/16～5/18	営巣地 F 2 より約 440m 北東の森林内で鳴き交わし
6/2	上記森林内で今年使用していた形跡がある巣 (F 3 巣) を確認。
6/6～6/8	営巣地 F 3 周辺で雌のとまりや鳴き声を確認。
6/17	F3 巣踏査中、警戒声等は全くなかった。F2 巣は、今年使用された形跡はなかった。
6/21～6/23	F1, F2 巣のある尾根上で、雄、雌のとまりや鳴き声を確認。特に雌の出現が多い。
7/6～7/8	営巣地周辺での出現なし。
7/20～7/22	営巣地周辺での出現なし。
8/1～8/3	営巣地周辺での出現なし。

注) 4/19～21、5/16～5/18、6/6～6/8、6/21 以降の確認内容は、定点観察調査によるもの

表 1 - 5 - 2 長久手会場内における食痕調査結果

調査日	確認個体数	シロハラ	ツグミ	ヒヨドリ	キジバト	エナガ	カラス類	種不明
平成 17 年 4 月 25 日	4	1	-	1	-	1	-	1
平成 17 年 4 月 26 日	5	1	2	2	-	-	-	-
平成 17 年 5 月 30 日	1	-	1	-	-	-	-	-
平成 17 年 5 月 31 日	0	-	-	-	-	-	-	-
平成 17 年 6 月 22 日	1	-	-	-	-	-	-	1
平成 17 年 6 月 23 日	0	-	-	-	-	-	-	-
平成 17 年 7 月 28 日	2	-	-	-	2	-	-	-
平成 17 年 7 月 29 日	4	-	1	2	1	-	-	-
平成 17 年 8 月 24 日	3	-	-	1	1	-	1	-
平成 17 年 8 月 26 日	2	1	-	-	1	-	-	-
平成 17 年 9 月 22 日	2	-	-	2	-	-	-	-
平成 17 年 9 月 23 日	1	-	-	-	1	-	-	-
合計	25	3	4	8	6	1	1	2

注 1) 確認個体数は、複数の骨や羽が同一個体が別個体かを見極めて推定する最少の個体数である。

注 2) 夏季に確認されたツグミ、シロハラについては、数ヶ月前のものと思われた。

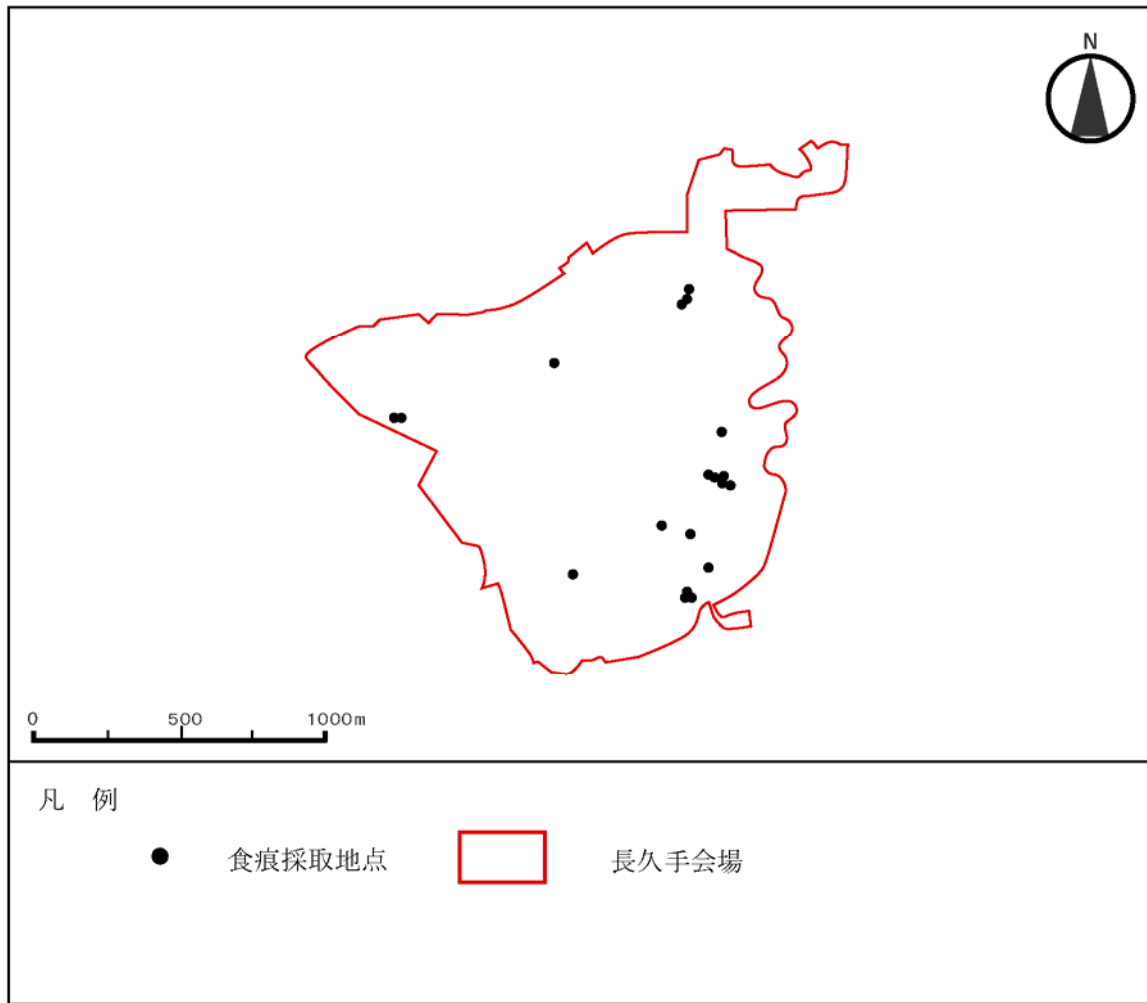


図 1 - 5 - 1 長久手会場内における食痕採取位置（平成 17 年度 4 月から 9 月）

表 1 - 5 - 3 営巣地 D 周辺における食痕調査結果

種名	最少個体数
キジバト	2
スズメ	1
クイナ類	1
カモ類	1
カラス類	3
コジュケイ	3
ドバト	4
種数 計	7
推定最小個体数 計	15

注) 確認個体数は、複数の骨や羽が同一個体か別個体かを見極めて推定する最少の個体数である。

表 1 - 5 - 4 各営巣地における巣立ち個体数

営巣地	確認された巣立ち個体数							
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
B	2	2	1	2	0*	0	0	0
C	-	0*	2	1	0	0	0	0
D	-	-	3	3	2	3	2	1
E	-	-	-	-	-	2	3	0
F	-	-	-	-	-	2	1	0*

注 1) 平成 10 年の営巣地 B、平成 15 年の営巣地 F の巣立ち個体数は推定による。

注 2) 「*」 営巣は確認されたものの、巣立ちには至らなかったことを示す。

注 3) 以上 , - 営巣地は確認されていなかった。

2 ハチクマ

ビデオカメラによる巣内の撮影

平成 17 年 4 月～ 8 月

17 年度の撮影された「『ハチクマ』の子育て記録」が見られます。

<http://www.expo2005.or.jp/jp/Y0/Y1/Y1.3/index.html>

第2章 瀬戸会場

第1節 植物

1 注目すべき植物

ア 調査地点

瀬戸会場及びその周辺

イ 調査結果

表2-1-1 注目すべき植物確認種一覧

種名(科名)	選定根拠 ¹⁾						確認状況 ²⁾	生育個体数 または生育 面積	生育状況
	A	B	C	D	E	F			
モンゴリナラ ³⁾ (ブナ)				準絶滅 危惧			(調査中)	-	-
カンアオイ類 (ウマノスズクサ)							(調査中)	-	-
シデコブシ (モクレン)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	絶滅危 惧類				12株 (幼木35株)	湿潤～過湿な谷底 部に点在
ヒツジグサ (スイレン)								約10.3㎡	会場外のため池中 で生育
マツモ (マツモ)			絶滅 寸前	準絶滅 危惧				約19.5㎡	会場外のため池中 で繁茂
クサナギオゴケ (ガガイモ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	準絶滅 危惧				3株	会場内の谷筋に生 育
シマジタムラソウ (シソ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	固有	準絶滅 危惧				55株	湿潤な谷底部に点 在
キキョウ (キキョウ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	付記	準絶滅 危惧			x	-	-
イヌタヌキモ (タヌキモ)		絶滅危 惧類		リスト 外 ⁶⁾				多数	会場外の湛水池中 で繁茂
サガミトリゲモ ⁴⁾ (イバラモ)	絶滅危 惧B類	絶滅危 惧B類	追加	絶滅危 惧類				0.04㎡	会場外のため池中 で生育
イトトリゲモ (イバラモ)	絶滅危 惧B類	絶滅危 惧B類	追加	リスト 外 ⁶⁾				約65.8㎡	会場外のため池中 で生育
ミズギボウシ (ユリ)								213株	貧栄養湿地等で点 在
ヒメコヌカグサ (イネ)	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	全国的 に危急	リスト 外 ⁶⁾				33株	やや湿潤な林縁に 生育
ウンヌケ (イネ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	絶滅危 惧類			(未調査)	-	-
シラン (ラン)	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	国リス ト	準絶滅 危惧				14株	乾性な陽地に生育
キンラン ⁵⁾ (ラン)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	国リス ト	準絶滅 危惧				1株	会場内の落葉樹の 林床に生育
サギソウ (ラン)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	絶滅危 惧類				33株	貧栄養湿地で生育
ムヨウラン類 (ラン)								35株	会場内のやや湿潤 な谷部に生育

<選定根拠>

A 「植物版レッドリスト」(1997年、環境庁)

B 「改訂日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック」(2000年、環境庁)

C 「愛知県維管束植物レッドリスト」(1998年、愛知県植物誌調査会)

D 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち植物編2001」(2001年、愛知県)

E 「保全を要する自然環境要素分布調査報告書」(1989年、愛知県)

F 上記に該当する種以外で地元有識者に保全重要性を指摘された植物種

注) *1: 注目すべき植物種の選定根拠A～Fのカテゴリー区分の解説については評価書参照。

*2: 「」 生育が確認された。「x」 生育が確認されなかった。なお、モンゴリナラ、カンアオイ類及びウンヌケについては調査適期の関係で、調査中または未調査とした。

*3: 愛知県、岐阜県の丘陵地に生育するミズナラの低地性の一型で習慣的にモンゴリナラと呼ばれているが、中国大陸の真のモンゴリナラとは異なるという見解もあり、学名は未考証。

*4: 平成16年度の調査で新たに確認された注目すべき種。

*5: 平成17年度の調査で新たに確認された注目すべき種。

*6: リスト外とは、環境庁のレッドデータリスト及びレッドリストに記載されているが、愛知県のレッドデータブックには記載されていない種。

2 シデコブシ
ア 調査地点

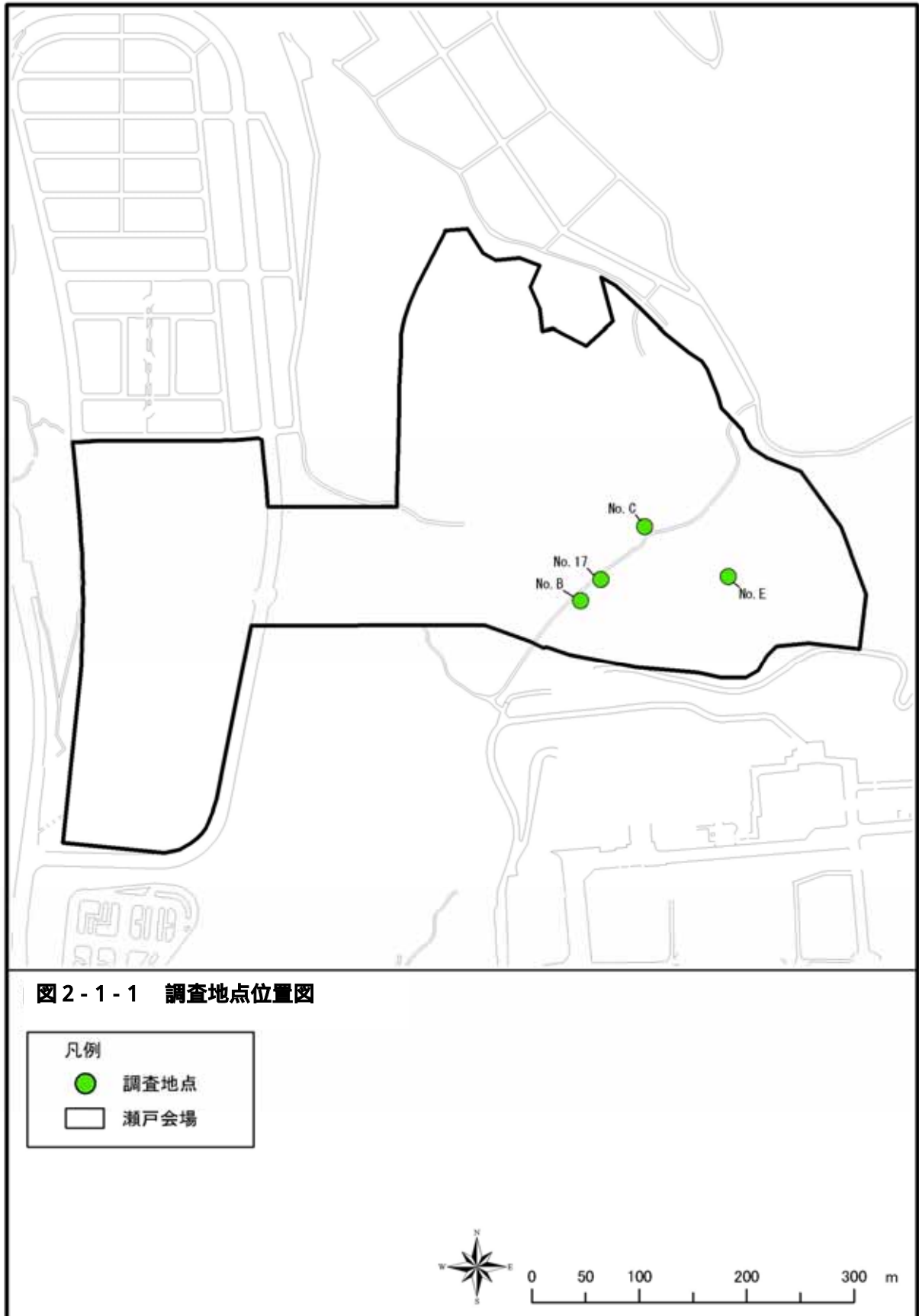


図 2 - 1 - 1 調査地点位置図



イ 調査結果

表 2-1-2 生育調査の測定項目及び測定方法

測定項目	測定方法等
個体数	調査地点別の個体数をカウントした。個体数は便宜上、地上部が独立しているものを1個体としてカウントした。調査はシデコブシの葉の最盛期である8月に実施した。幹長が1.2m未満のものは、「幼木」として区別してカウントした。
幹数	地表から幹長1.2m位置までに分岐した幹の数。
胸高直径(cm)	地表から幹長1.2m位置の幹の直径。
樹高(m)	個体の高さ。地表から個体の最上部までの最短距離。
幹長(m)	主幹の長さ。
開花数等	4月に開花した花の数を個体別にカウントした。
幹状態	幹の形状を「直立」、「斜上」、「倒伏」の3つに区分した。

表 2-1-3 活力度調査の測定項目及び評価方法

項目	ランク	4	3	2	1
樹勢		旺盛な生育状態を示し、被害が全くみられない。	幾分被害の影響をうけているが、あまり目立たない。	異常がみとめられる。	生育状態が劣悪で回復の見込みがない。
樹形		自然樹形を保っている。	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い。	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる。	自然樹形が完全に崩壊され、奇形化している。
枝の伸長量		正常。	幾分少ないが、それ程目立たない。	枝は短小となり、細い。	枝は極度に短小、しょうが状の節間がある。
枝葉の密度		正常、枝および葉の密度のバランスがとれている。	普通、1に比してやや劣る。	やや疎。	枯枝が多く、葉の発生が少ない。密度が著しく疎。
葉形		正常。	少し歪みがある。	変形が中程度。	変形が著しい。
葉色		正常。	やや異常。	かなり異常。	著しく異常。
葉の大きさ		正常。	幾分小さい。	中程度に小さい。	著しく小さい。
梢端の枯損 ^{*1}		なし。	少しあるが、あまり目立たない。	かなり多い。	著しく多い。
ネクロシス ^{*2}		なし。	わずかにある。	かなり多い。	著しく多い。
開花状況		良好。	幾分少ない。	わずかに咲く。	咲かない。

注1) 出典：「森林立地調査法」(森林立地学会、平成11年)：樹木活力指標の評価基準(科学技術庁資源調査会、昭和47年)なお、活力度のランクは、結果の解析の都合により出典の評価ランクとは逆に、良好な状態である場合を「4」とし、4～1の4段階で評価した。

注2) *1：枝先の枯れ。

*2：葉に生じる部分的な組織の枯死で、赤褐色や黄色の斑点など。

表 2-1-4 シデコブシの生育・活力度調査結果

地点名	調査対象個体及び幹の番号*1		幼木数	総個体数*2	総合活力度*3	4月（開花期）						5月（葉の展開期）					8月（葉の最盛期）					
	個体	幹				形状				開花数	平均活力度	形状				平均活力度	形状				結実数	平均活力度
						樹高(m)	幹長(m)	胸高直径(cm)*4	幹状態			樹高(m)	幹長(m)	胸高直径(cm)*3	幹状態		樹高(m)	幹長(m)	胸高直径(cm)*3	幹状態		
No.17	7	1	17	19	3.8	10.3	10.5	9.6	直立	58	3.5	10.3	11.0	9.6	直立	3.9	10.3	11.2	9.6	直立	22	3.9
		2				7.1	7.8	7.6	直立	13	3.8	7.2	8.0	7.8	直立	3.9	7.2	8.0	7.8	直立	4	3.8
	8	9.2	12.0	10.5	ほぼ直立	206	3.8	9.2	12.0	10.8	ほぼ直立	3.9	9.2	12.0	10.8	ほぼ直立	18	3.9				
No.B	1	1	13	19	3.0	0.9	2.7	1.1	倒伏	0	3.3	0.9	2.7	1.1	倒伏	3.3	0.9	2.7	1.1	倒伏	0	3.3
		2				1.4	1.4	0.5	直立	0	3.3	1.4	1.5	0.5	直立	3.7	1.3	1.5	0.5	直立	0	3.9
	2	1				2.3	5.1	3.8	倒伏	0	3.0	2.3	5.1	3.8	倒伏	3.3	2.1	5.1	3.8	倒伏	0	3.4
		2				2.0	4.4	2.2	倒伏	0	3.5	1.8	4.5	2.3	倒伏	3.8	2.0	4.5	2.3	倒伏	0	3.7
		3				1.7	3.8	1.7	斜上	0	3.0	1.3	3.9	1.7	斜上	3.6	1.3	3.9	1.7	斜上	0	3.6
	3	1				1.2	1.7	0.5	斜上	0	3.3	1.0	1.7	0.5	斜上	3.9	0.6	1.8	0.5	倒伏	0	3.7
		2				1.5	1.7	0.5	斜上	0	3.8	1.3	1.7	0.5	斜上	3.9	1.3	1.8	0.5	斜上	0	3.9
	4	1				1.1	1.3	0.6	直立	0	3.5	1.0	1.4	0.6	直立	3.3	1.2	1.4	0.6	直立	0	3.8
		2				2.1	4.2	2.5	倒伏	0	3.3	1.9	4.1	2.2	倒伏	3.7	生育調査対象外		-	-	-	-
	No.C	1				1	4	6	3.8	5.3	5.3	3.8	直立	25	4.0	5.3	5.3	3.8	直立	4.0	5.3	5.4
2			1.4	1.6	0.5	直立				0	4.0	1.4	1.7	0.5	斜上	3.9	1.3	1.8	0.5	斜上	0	3.9
2		1	6.0	7.0	7.4	斜上				177	3.5	6.0	7.0	7.4	斜上	3.9	6.0	7.0	7.4	斜上	61	3.8
		2	2.1	6.6	5.4	倒伏				21	3.3	1.6	6.6	5.4	倒伏	3.8	1.6	6.6	5.4	倒伏	10	3.8
		3	1.8	2.2	1.0	直立				1	4.0	1.9	2.2	1.0	直立	3.9	1.9	2.2	1.0	直立	0	4.0
		4	1.9	2.1	0.7	直立				0	4.0	2.0	2.2	0.9	直立	4.0	2.1	2.3	1.0	直立	0	4.0
5	1	1.5	2.0	0.6	斜上	0	3.5	1.3	2.0	0.6	斜上	3.9	1.3	2.1	0.6	斜上	0	3.7				
	2	1.2	1.7	<0.3	斜上	2	3.8	1.1	1.8	0.5	斜上	3.9	1.1	1.8	0.5	斜上	2	3.9				
No.E	2	8.5	11.0	11.1	斜上	2	3.3	8.7	11.0	11.1	斜上	3.9	8.7	11.0	11.1	斜上	0	3.6				
	3	10.0	11.5	8.3	直立	1	4.0	10.0	11.5	8.3	直立	4.0	10.0	11.5	8.3	直立	1	4.0				

注) *1: 網掛けは先端の欠損や枯損により生育調査の対象から除外した分枝(幹)。
 *2: 総個体数は幼木の確認適期を考慮し8月の調査結果とした。
 *3: 総合活力度は葉の最盛期である8月の活力度の値とした。ただし、開花状況の評価値については4月の値を用いて算出した。
 *4: 「<0.3」は胸高直径が0.3cm以下であることを示す。

表 2-1-5 シデコブシ地下水位（平成 17 年：博覧会供用時）

（単位：cm）

観測月日 地点名	4/4	5/30	6/30	7/22	8/24	平均地下 水位
No.17	0.0	8.5	11.0	18.5	15.0	10.6
No.B	1.0	4.0	6.5	3.0	8.5	4.6
No.C	7.0	12.0	13.5	19.0	7.0	11.7
No.E	8.5	17.5	14.5	24.0	19.0	16.7

注) 値は数値が小さいほど地下水位が高いことを示す。

第2節 動物

1 ムササビ

ア 調査地点

瀬戸会場及びその周辺

イ 調査結果

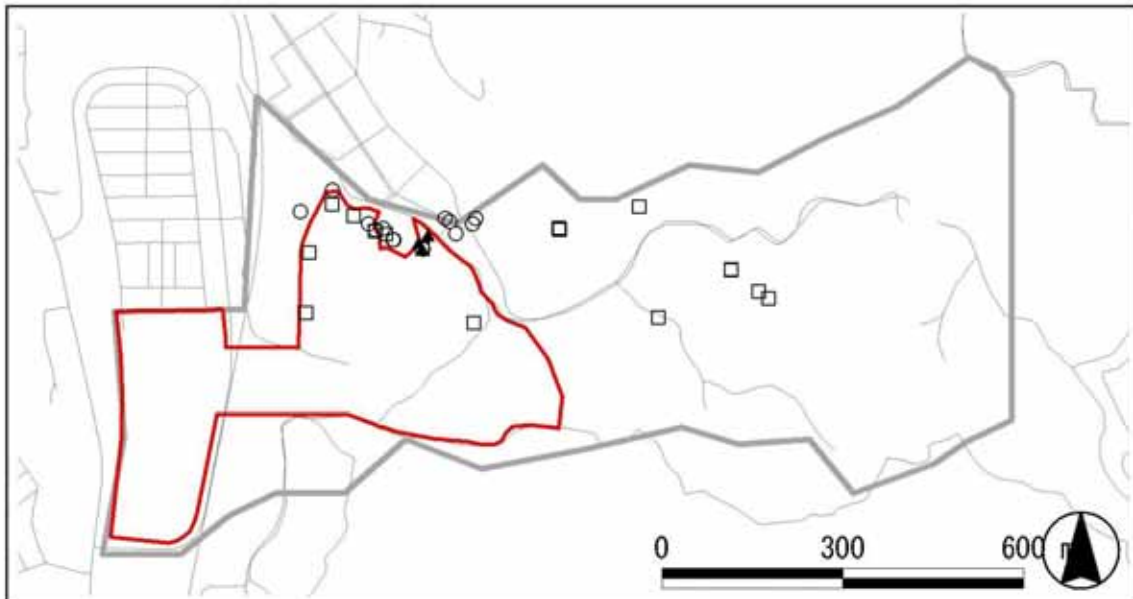


図2-2-1 ムササビの確認状況（平成17年度：供用時）

凡例

- 目撃
- 糞・食痕
- 調査対象地域
- ▲ 鳴き声
- 瀬戸会場

注：保護上の観点から、ムササビの利用を確認した巣箱の位置は示さない。

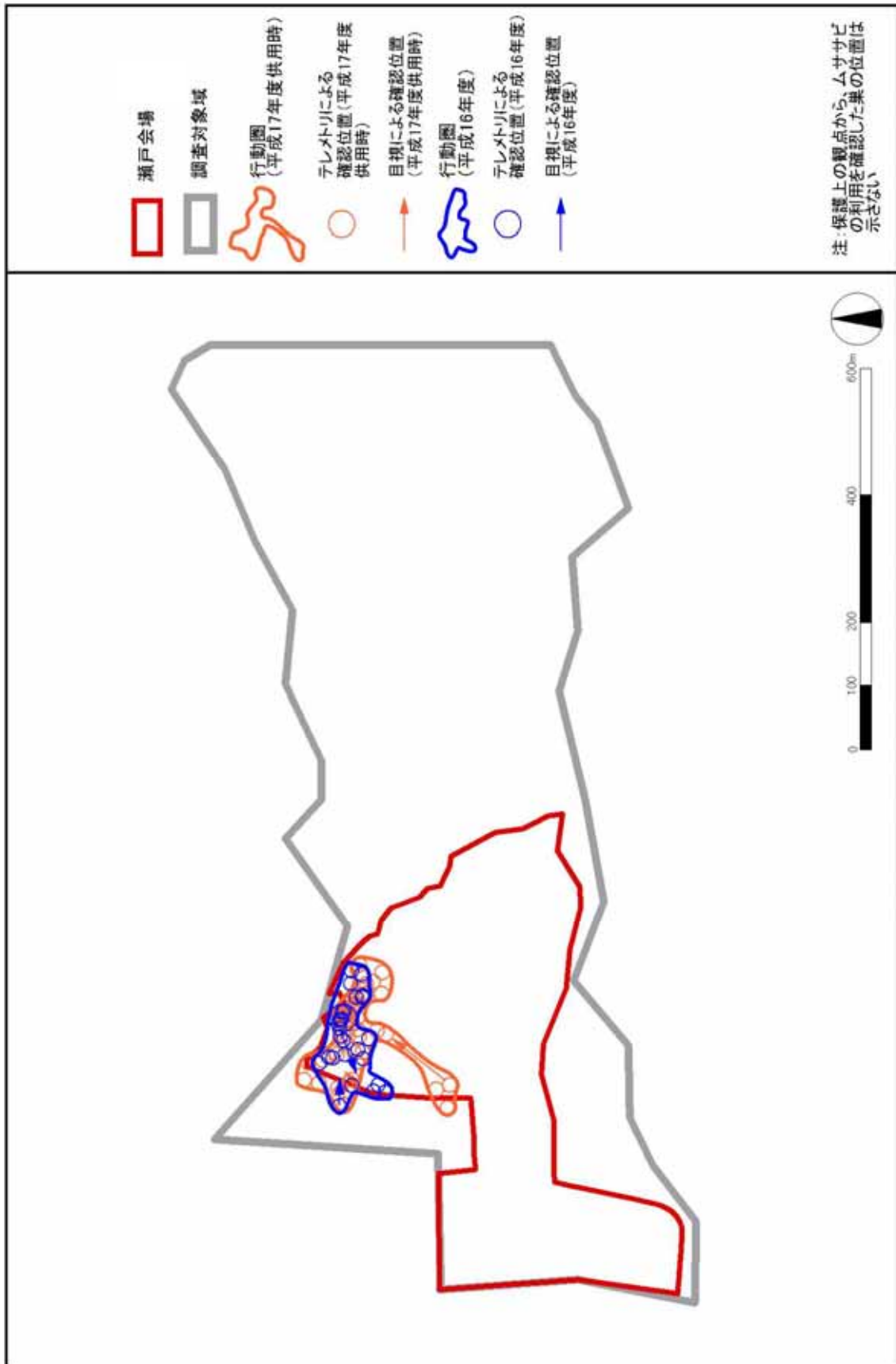


図2-2-2 ムササビのテレメトリ調査結果と行動圏の推定

2 アオゲラ等繁殖鳥類

ア 調査地点

瀬戸会場及びその周辺

イ 調査結果

表 2 - 2 - 1 繁殖可能性ランクの区分

ランク	基準	観察事項
5	確実に繁殖	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒナのいる巣を確認した場合。 ・巣と卵、又は、鳥が落ち着いて巢内に座っている。巣の近くでその種の卵殻が見つかった。 ・成鳥が使用されている巣のあるらしい所に入りにしている。（使用されている巣 - 巣に鳥がいたというだけでなく、巣に入って出てこない、一定時間、内部にとどまった後、穴又は巣らしい所から離れる、巢上で雌雄が交代するなどを確認した場合）。 ・成鳥がフンを運んでいる。 ・巣立ち後、まだ巣からほとんど移動していないと思われるヒナ、巣から落ちたと思われるヒナなどを見た。 ・巣立ち後の巣の発見 ・擬傷
4	たぶん繁殖している	<ul style="list-style-type: none"> ・成鳥がヒナへの食物を運んでいる。食物を遠くに運んでいる場合は除く。 ・家族群、かなり移動できるヒナを含む。ただし、親から独立した「幼鳥」は除く。 ・造巣行動、巣穴掘りも含む。（猛禽などは繁殖能力のない若鳥が巣を造ったりすることがあるので、この欄に入れた） ・巣のあると思われるところに鳥が訪れた。 ・求愛行動、求愛ディスプレイ（ハトのキス、雄が雌に食物を運ぶ、交尾行動などを含む）を見た、あるいは威嚇行動や警戒声により、近くに巣又はヒナの存在が考えられる。 ・繁殖期、営巣しうる環境で、数日以上の間隔をおき、同じ場所でその鳥のさえずり（キツツキのドラミングを含む）を聞く。
3	繁殖の可能性あり	<ul style="list-style-type: none"> ・営巣しそうな環境で、繁殖期に鳥を認めたが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし、夏に残っているカモやカモメ、コロニーがないことがわかっている場所でのサギ、渡り途中のシギなどは含まれない。
2	繁殖について何とも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期に鳥を見たが、何とも言えない。
1	繁殖しないを可とする	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期に姿を見たが、付近で営巣していないことは明らか。（繁殖期は多くの留鳥で4月1日～7月31日、多くの夏鳥で5月1日～7月31日。ハト、カイツブリなどの例外については図鑑を参照のこと）。

「東京都鳥類繁殖分布調査報告書抜粋」（平成 10 年 3 月：東京都環境保全局）

表 2 - 2 - 2 繁殖可能性ランク別確認地点数（延べ数）

調査年	評価書									モニタリング調査								
	工事前									工事中						供用時		
	平成 12 年度			平成 13 年度			平成 14 年度			平成 15 年度			平成 16 年度			平成 17 年度		
繁殖可能性 ランク	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3
ヨタカ	0	0	4	0	0	3	0	0	0	0	0	5	0	0	11	0	2	16
アオゲラ	0	0	10	0	4	4	0	0	8	0	1	2	0	0	7	0	0	8
アカゲラ	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コゲラ	0	0	52	0	0	34	0	1	20	0	0	24	0	1	18	0	2	41
サンショウクイ	0	0	11	0	0	22	0	0	12	0	0	3	0	0	5	0	1	16
ヤブサメ	0	11	50	0	0	27	0	0	27	1	1	13	1	4	19	0	0	23
キビタキ	0	6	42	0	2	47	0	0	36	0	1	28	0	2	24	0	2	47
オオルリ	3	0	10	3	1	11	1	0	10	0	1	18	0	4	17	0	0	18
サンコウチョウ	3	1	37	1	2	32	0	0	13	0	0	10	1	0	7	0	1	17
合計	6	18	220	4	9	180	1	1	126	1	4	103	2	11	108	0	8	186

注) 繁殖鳥類については、昼間の調査を実施しているが、平成 12 年度・13 年度及び 15 年度・16 年度・17 年度のヨタカの確認情報は、他の動物種を対象として夜間に実施した調査時に確認されたものである。平成 14 年度についても、他の動物種の夜間調査を実施しているが、生息情報は得られなかった。

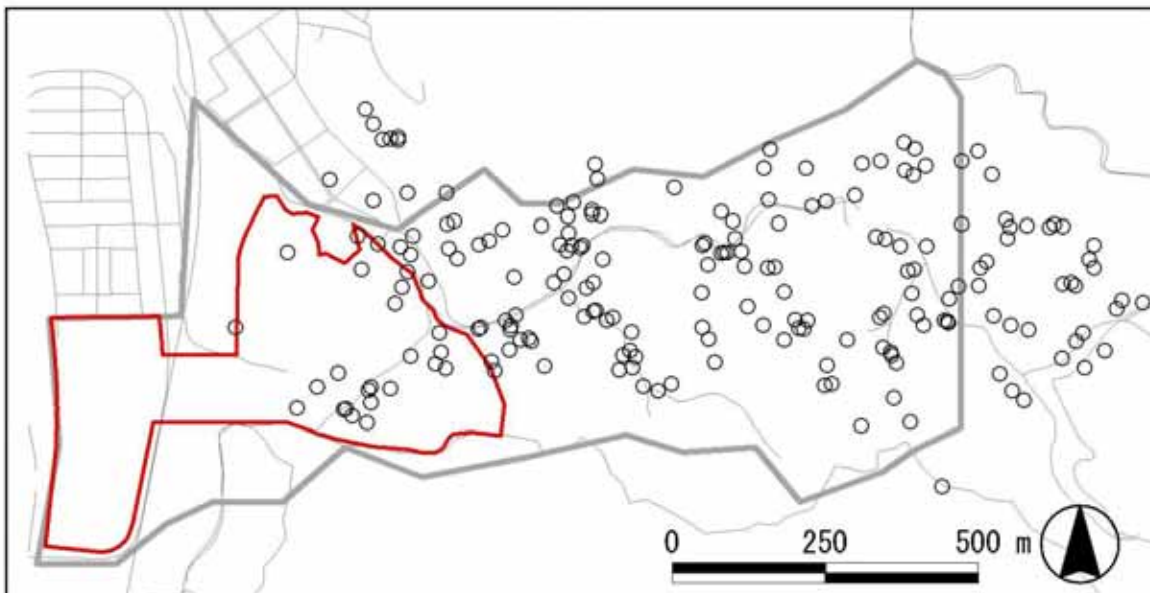


図 2 - 2 - 3 繁殖可能性ランク 3 以上の鳥類確認位置（平成 17 年度：供用時）

凡例

- 鳥類確認位置（繁殖可能性ランク3以上）
- 調査対象地域
- 瀬戸会場

3 ハッチョウトンボ・ベニイトンボ

ア 調査地点

会場及びその周辺で、過去の調査で生息が確認された湿地等

イ 調査結果

表 2-2-3 ハッチョウトンボ及びベニイトンボの個体数（延べ数）の比較

調査年	評価書						モニタリング調査												確認位置			
	平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 17 年度									
調査地点	計		計		計		計		計		計		計		計							
ハッチョウトンボ																						
1	2	1	3	4	1	5	0	0	0	会場内			
2	1	0	1	10	5	15	13	0	13	会場内			
3	3	0	3	123	4	127	139	5	144	0	0	(1)	0	0	0	19	0	19	会場内			
4	a	6	4	10	40	20	60	11	11	22	26	9	(37)	35	6	6	12	30	20	(55)	会場外	
	b	18	2	20	43	20	63	39	2	41	38	16	(57)	54	18	6	24	39	10	(59)	会場外	
5	19	+	19	86	17	103	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	会場外		
6	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	会場外		
ベニイトンボ																						
4	b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	7	4	11	17	1	18	(4)	会場外

注) 調査回数は以下のとおり

平成 12 年度：7 月 1 回 平成 13 年度：6 月 2 回、7 月 3 回、8 月 2 回 平成 14 年度：6 月 3 回、7 月 2 回
 平成 15 年度：6 月 2 回、7 月 1 回 平成 16 年度：6 月 2 回、7 月 1 回 平成 17 年度：5 月 1 回、6 月 1 回、
 7 月 1 回、8 月 1 回

調査地点 4 について、a は浸出水流入部、b は池畔であることを示す。

表中の「+」は、遠方からの観察であったため、生息の有無については判断できなかった。

表中の「*」は、モニタリング調査対象範囲外であるため平成 14 年度以降は調査を実施していない。

表中の「-」は、平成 12～14 年度の調査では未確認地域であったことを示す。

表中の（ ）内の数字は、雌雄の判断ができなかった個体を含んだ数を表す。

表中の「...」は、生息確認地点が消失したことを示す。

4 ゲンジボタル

ア 調査地点

吉田川及びその周辺水路

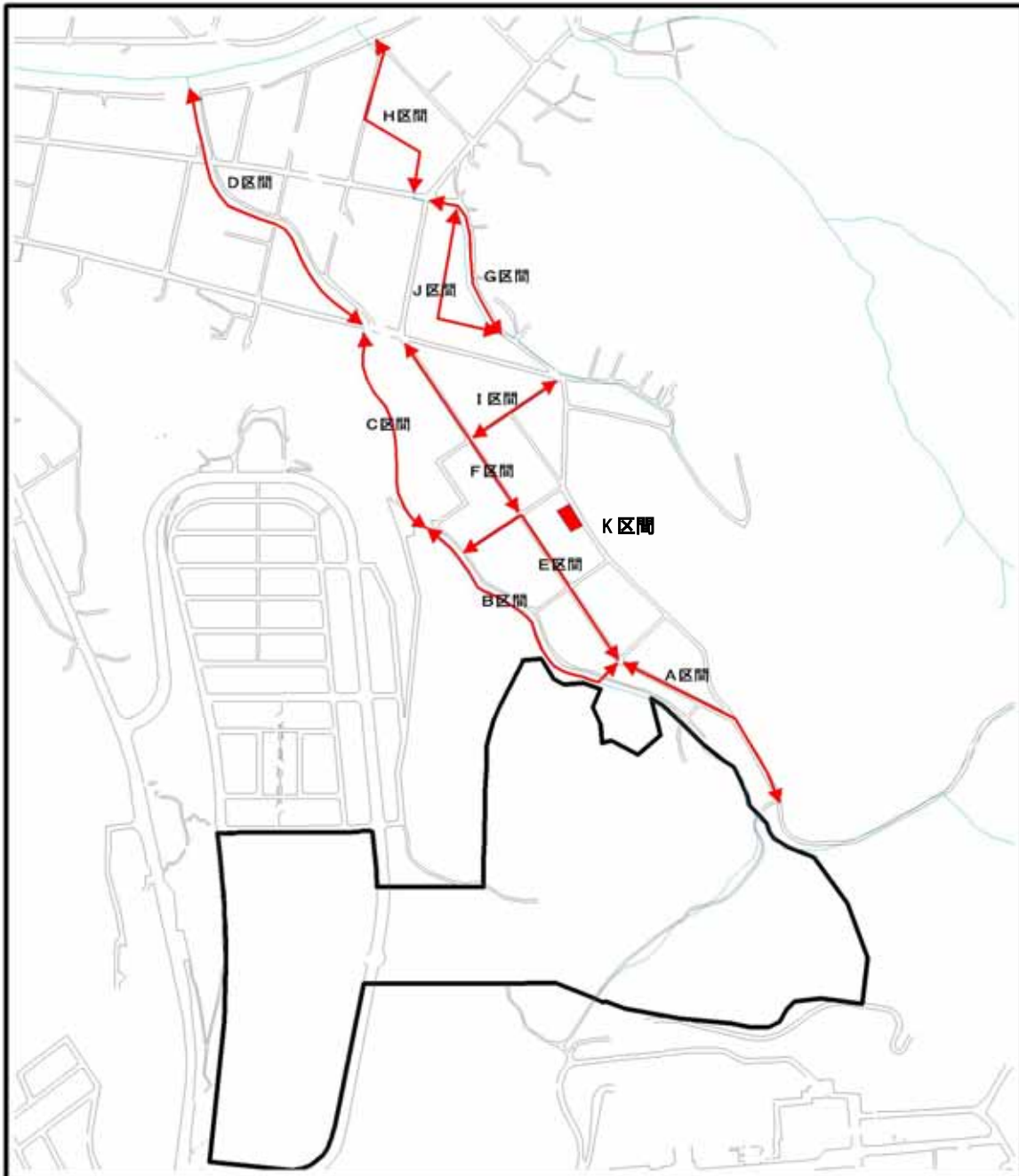
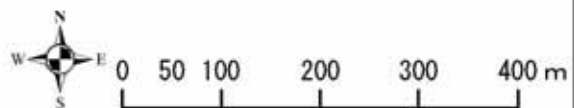
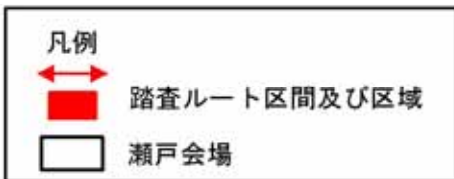


図 2 - 2 - 4 ゲンジポータル踏査ルート



イ 調査結果

表 2 - 2 - 4 各調査区間の調査日毎の確認個体数

区分	調査 区間	調査日毎の確認個体数（個体）										
		5/31	6/3	6/6	6/9	6/13	6/16	6/20	6/23	6/27	6/30	7/7
吉 田 川	A	1	2	6	5	12	16	22	13	6	1	0
	B	0	0	0	8	6	8	16	5	0	2	0
	C	3	3	5	7	10	5	1	2	0	0	0
	D	3	7	14	33	45	40	19	15	3	2	0
水 路	E	0	0	1	6	2	0	0	0	1	0	0
	F	0	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0
	G	1	0	12	10	2	6	2	0	0	0	0
	H	10	10	18	26	16	8	0	2	0	0	0
	I	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	J	1	0	5	12	21	8	1	0	1	0	0
環 境 水 田	K	0	3	10	16	47	14	9	9	0	2	0

注) : 各区間における最大確認個体数

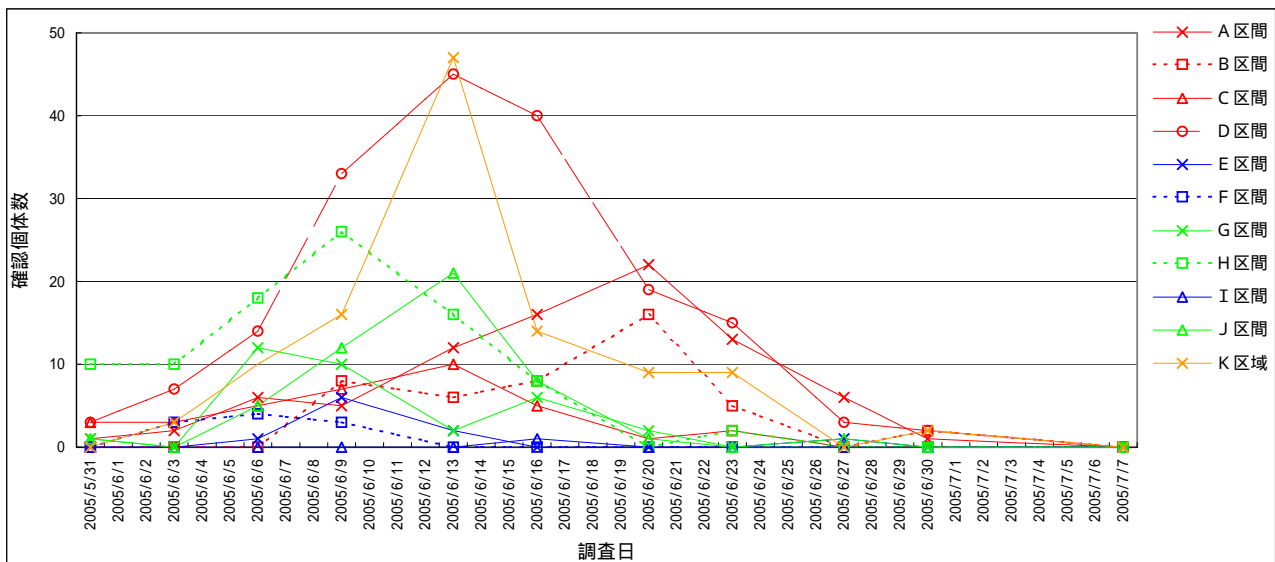


図 2 - 2 - 5 区間別発生消長（平成 17 年度）

5 ギフチョウ

ア 調査地点

会場及びその周辺

イ 調査結果

表 2 - 2 - 5 ギフチョウ成虫調査結果の比較（平成 12～17 年度）

調査年		個体数	合計	調査日
評価書	平成 12 年度	0	3	第 1 回：4 月 5～7 日
		3		第 2 回：4 月 12～14 日
	平成 13 年度	5	19	第 1 回：4 月 4～6 日
		14		第 2 回：4 月 12～14 日
モニタリング調査	平成 14 年度	56	81	第 1 回：4 月 2～4 日
		25		第 2 回：4 月 10～12 日
	平成 15 年度	0	39	第 1 回：4 月 3～4 日
		39		第 2 回：4 月 15～16 日
	平成 16 年度	9	23	第 1 回：4 月 7～8 日
		14		第 2 回：4 月 13・15 日
	平成 17 年度	53	63	第 1 回：4 月 18～19 日
		10		第 2 回：4 月 25～26 日

注) 数値は延べ確認個体数を示す。

表 2 - 2 - 6 ギフチョウ卵調査結果の比較（平成 12～17 年度）

調査年		卵塊数	卵数	調査日
評価書	平成 12 年度	10	66	4 月 24～27 日
	平成 13 年度	16	100	4 月 23～25 日
モニタリング調査	平成 14 年度	39	267	4 月 11 日
	平成 15 年度	47	278	4 月 22～23 日
	平成 16 年度	42	273	4 月 26・28 日
	平成 17 年度	52	288	5 月 9～10 日

注) 平成 12 年度の踏査ルートは平成 13～17 年度と一部異なる。

第3章 長久手会場

第1節 植物

1 注目すべき植物

ア 調査地点

会場及びその周辺

イ 調査結果

表3-1-1 注目すべき植物確認種一覧

種名(科名)	選定根拠 ^{*1}						確認状況 ^{*2}	生育個体数または生育面積	生育状況
	A	B	C	D	E	F			
モンゴリナラ ^{*3} (ブナ)				準絶滅 危惧			(調査中)	-	-
カンアオイ類 (ウマノスズクサ)							(調査中)	-	-
サクラバハノキ (カバノキ)	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	全国的 に危急	リスト 外 ^{*5}				6株 (幼木9株)	会場外の湿地で生育
シデコブシ (モクレン)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	絶滅危 惧類				6株 (幼木13株)	会場外の湿地で生育
カザグルマ (キンボウゲ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	全国的 に危急	絶滅危 惧類				27株	会場外の湿地で生育
タチモ (アリノトウグサ)	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	国リス ト	絶滅危 惧類				約38.0㎡	会場内ため池の水中 で生育
シマジタムラソウ (シソ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	固有	準絶滅 危惧				9株	会場内ため池付近で 生育
ノタヌキモ (タヌキモ)							x	-	-
イヌタヌキモ ^{*5} (タヌキモ)		絶滅危 惧類		リスト 外 ^{*5}				多数	会場内ため池及び沈 砂池の水中で繁茂
イトトリゲモ (イバラモ)	絶滅危 惧 B類	絶滅危 惧 B類	追加	リスト 外 ^{*5}				多数	会場内の沈砂池で生 育
キキョウ (キキョウ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	付記	準絶滅 危惧				43株	会場内ため池付近で 生育
イトモ (ヒルムシロ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	追加	絶滅危 惧類				多数	会場内ため池の水中 で生育
ミズギボウシ (ユリ)								803株	会場内ため池付近で 生育
クロイヌノヒゲ ^{*4} (ホシクサ)			稀少				(未調査)	-	-
シラタマホシクサ (ホシクサ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	固有	絶滅危 惧類			(未調査)	-	-
ヒメコヌカグサ (イネ)	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	全国的 に危急	リスト 外 ^{*5}				125株	会場外のやや湿潤な 林縁に生育
ヒナザサ (イネ)			危急	絶滅危 惧類				約0.61㎡	会場内ため池の水際 で生育
ウンヌケ (イネ)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	絶滅危 惧類			(未調査)	-	-
シズイ (カヤツリグサ)			危急	絶滅危 惧類				約1.04㎡	会場内ため池の水中 で生育
サギソウ (ラン)	絶滅危 惧類	絶滅危 惧類	危急	絶滅危 惧類				約34.1㎡	会場内ため池付近の 湿地で生育
ムヨウラン類 (ラン)								120株	会場内のやや湿潤な 谷部に生育

<選定根拠>

- A 「植物版レッドリスト」(1997年、環境庁)
- B 「改訂日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック」(2000年、環境庁)
- C 「愛知県維管束植物レッドリスト」(1998年、愛知県植物誌調査会)
- D 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち植物編2001」(2001年、愛知県)
- E 「保全を要する自然環境要素分布調査報告書」(1989年、愛知県)
- F 上記に該当する種以外で地元有識者に保全重要性を指摘された植物種

注) *1: 注目すべき植物種の選定根拠A~Fのカテゴリー区分の解説については評価書参照。

*2: 「」 生育が確認された。「x」 生育が確認されなかった。なお、モンゴリナラ、カンアオイ類、クロイヌノヒゲ、シラタマホシクサ及びウンヌケについては調査適期の関係で、調査中または未調査とした。

*3: 愛知県、岐阜県の丘陵地に生育するミズナラの低地性の一型で習慣的にモンゴリナラと呼ばれているが、中国大陸の真のモンゴリナラとは異なるという見解もあり、学名は未考証。

*4: 愛知県維管束植物レッドリスト稀少種であるクロイヌノヒゲは、愛知県レッドデータブックでは対象外となったが、原則同レッドリストを用いることとしているため、このまま注目すべき植物種の対象種としている。

*5: リスト外とは、環境庁のレッドデータリスト及びレッドリストに記載されているが、愛知県のレッドデータブックには記載されていない種

第2節 動物

1 アオゲラ等繁殖鳥類

ア 調査地点

長久手会場及びその周辺森林域

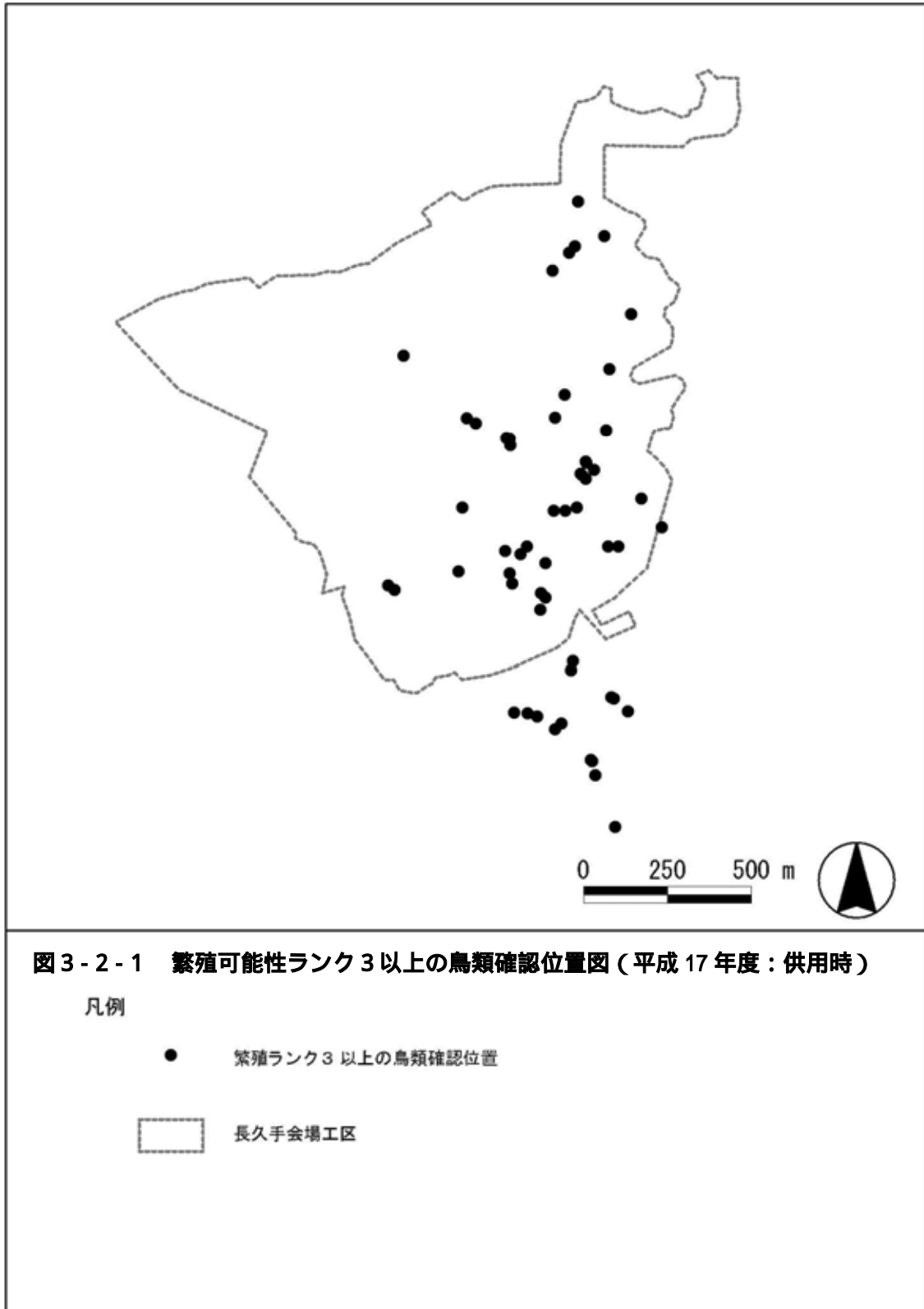
イ 調査結果

表3-2-1 繁殖可能性ランク別確認地点数（延べ数）

調査年	評価書									モニタリング調査								
	工事前									工事中						供用時		
	平成 11 年度			平成 13 年度			平成 14 年度			平成 15 年度			平成 16 年度			平成 17 年度		
繁殖可能性 ランク	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3
ヨタカ	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コゲラ	0	0	21	0	3	17	2	0	27	0	0	28	0	1	8	0	2	32
ヤブサメ	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	4	0	0	1
キビタキ	0	1	10	0	9	7	0	0	12	0	0	13	0	2*	14*	1	2	17
オオルリ	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
サンコウチョウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	41	2	12	24	2	0	41	0	0	46	0	3*	27*	1	4	50

注1) 繁殖鳥類については対象種全てについて昼間の調査を行っている。しかし、平成 11 年度・13 年度のヨタカの確認データは他の動物種を対象として実施された夜間調査時の鳴き声確認により補完されたものである。なお、平成 14 年度～17 年度は同様の調査範囲内での他の動物種の夜間調査は実施していない。

注2) * : 「環境影響評価追跡調査（モニタリング調査）報告書（平成 16 年度）」において誤記が確認されたため、それぞれの値を修正した。誤 1 正 2、誤 15 正 14、誤 2 正 3 及び誤 28 正 27。

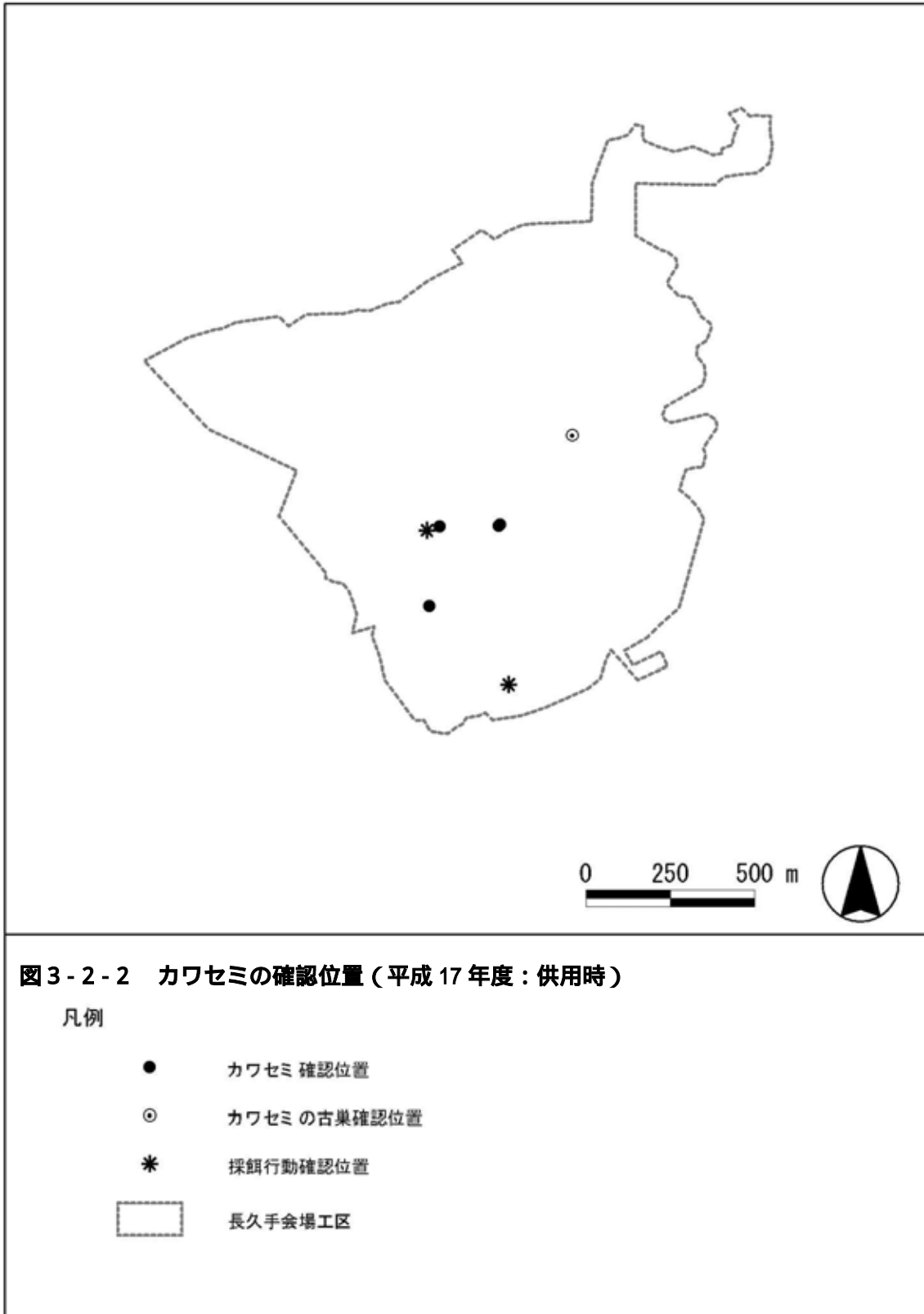


2 カワセミ

ア 調査地点

長久手会場内の既存の池及び水路等

イ 調査結果



3 注目すべき魚類

ア 調査地点

長久手会場内の主な池及び水路

イ 調査結果

表3-2-3 注目すべき魚類の生息調査結果（供用時）

単位：尾

対象種	調査月	かえで池	めだか池	かきつばた池	かめの池	めだか池上流水路
ホトケドジョウ	平成 17 年 5 月	0	0	6	8	18
	平成 17 年 8 月	0	1	4	19	75
カワバタモロコ	平成 17 年 5 月	1	2	8	21	1
	平成 17 年 8 月	0	28	3	13	104

4 ハッチョウトンボ・ベニイトトンボ

ア 調査地点

過去の調査で生息が確認された湿地等

イ 調査結果

表3-2-4 ハッチョウトンボ・ベニイトトンボの確認個体数（延べ数）

調査年	評価書						モニタリング調査						確認位置						
	平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度								
調査地点		計		計		計		計		計		計		計					
ハッチョウトンボ																			
1	42	6	48 (72)	72	13	85	70	33	103 (114)	34	32	66	101	73	174 (191)	41	19	60 (75)	会場内
2	9	8	17	12	0	12	11	1	12	11	10	21	10	5	15 (18)	12	5	17 (19)	会場内
3	0	0	0	9	0	9	3	0	3	4	5	9	9	7	16 (21)	13	9	22 (25)	会場内
4	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	会場内
5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	会場内
6	8	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	会場内
7	12	5	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	会場外
8	-	-	-	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	会場内
ベニイトトンボ																			
1	6	1	7	3	0	3	1	0	1	1	1	2	0	1	1	1	0	1	会場内
4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	2	5	1	6	会場内
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	会場内
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	会場内

注) 表中の () 内の数字は、雌雄の判断ができなかった個体を含んだ数を表す。

5 ギフチョウ

ア 調査地点

長久手会場内森林域

イ 調査結果

表 3 - 2 - 5 ギフチョウ成虫調査結果の比較（平成 12～17 年度）

調査年		個体数	合計	調査日
評価書	平成 12 年度	0	20	第 1 回：4 月 5～7 日
		20		第 2 回：4 月 12～14 日
	平成 13 年度	3	23	第 1 回：4 月 4～6 日
		20		第 2 回：4 月 12～14 日
モニタリング調査	平成 14 年度	26	46	第 1 回：4 月 2～4 日
		20		第 2 回：4 月 10～12 日
	平成 15 年度	31	76	第 1 回：4 月 9～10 日
		45		第 2 回：4 月 17～18 日
	平成 16 年度	25	68	第 1 回：4 月 6～7 日
		43		第 2 回：4 月 12～13 日
	平成 17 年度	76	115	第 1 回：4 月 13～14 日
		39		第 2 回：4 月 21～22 日

注) 数値は延べ確認個体数を示す。

表 3 - 2 - 6 ギフチョウ卵調査結果の比較（平成 12～17 年度）

調査年		卵塊数	卵数	調査日
評価書	平成 12 年度	77	518	4 月 24～27 日
	平成 13 年度	230	1,500	4 月 23～25 日
モニタリング調査	平成 14 年度	195	1,285	4 月 17～18 日
	平成 15 年度	327	2,185	4 月 24～25 日
	平成 16 年度	399	2,451	4 月 26～27 日
	平成 17 年度	357	2,060	5 月 5 日

第3節 生態系

1 ハッチョウトンボ等に着目した公園型湿地生態系

ア 調査地点

ささ池周辺の湿地

イ 調査結果

表3-3-1(1) 湿地湧水流量測定結果及び降水量データ（博覧会供用時）

測定日		4/22	5/20	6/24	7/22	8/29	9/22
地点名							
流量（リットル/分）		0.7	0.6	0.4	0.3	0.0	0.2
降水量 （mm）	10日前	13.0	0.0	0.0	5.0	1.0	0.0
	9日前	2.0	0.0	9.0	0.0	3.0	0.0
	8日前	0.0	16.0	11.0	3.0	27.0	3.0
	7日前	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	6日前	0.0	0.0	0.0	0.0	27.0	7.0
	5日前	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0
	4日前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3日前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2日前	14.0	2.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	前日	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0
	当日	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注）降水量は、気象庁電子閲覧室のデータより「豊田」の日降水量を使用した。

15年度から17年度供用時について4月から9月の6カ月間の総降水量をみると、15年度は1,210mm、16年度は859mm、17年度は591mmで、17年度は明らかに15年度よりも総降水量が少ない状況であった。

表3-3-1(2) 湿地湧水流量測定結果及び降水量データ（平成15年度:工事中）

測定日		4/22	5/21	6/18	7/18	8/21	9/19	10/17	11/21	12/18	1/20	2/17	3/10
地点名													
流量（リットル/分）		3.3	1.7	1.9	2.6	2.2	0.2	1.1	1.1	1.0	0.3	0.2	0.2
降水量 （mm）	10日前	6.0	5.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	16.0
	9日前	0.0	0.0	0.0	13.0	10.0	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8日前	0.0	0.0	0.0	21.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7日前	2.0	9.0	2.0	6.0	62.0	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0
	6日前	0.0	11.0	1.0	22.0	39.0	3.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	5日前	0.0	0.0	11.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4日前	0.0	0.0	8.0	12.0	10.0	0.0	31.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	3日前	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	0.0	7.0	2.0	0.0
	2日前	43.0	0.0	34.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	3.0	0.0
	前日	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	13.0	0.0	0.0
	当日	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注）降水量は、気象庁電子閲覧室のデータより「豊田」の日降水量を使用した。

表 3 - 3 - 1 (3) 湿地湧水流量測定結果及び降水量データ（平成 16 年度:工事中）

測定日		4/20	5/19	6/16	7/21	8/26	9/15	10/25	11/25	12/22	1/13	2/23	3/16
地点名													
流量 (リットル/分)		0.8	4.9	0.6	0.1	0.1	0.1	3.6	1.8	1.2	0.6	1.0	0.5
降水量 (mm)	10 日前	0.0	12.0	28.0	0.0	0.0	4.0	0.0	25.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	9 日前	0.0	55.0	6.0	0.0	32	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
	8 日前	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	7 日前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	10.0	0.0	1.0	7.0	0.0
	6 日前	7.0	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	5 日前	0.0	1.0	15.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	0.0	0.0	13.0	27.0
	4 日前	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	3 日前	0.0	42.0	0.0	5.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2 日前	0.0	1.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	前日	14	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	当日	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 降水量は、気象庁電子閲覧室のデータより「豊田」の日降水量を使用した。

2 公園型ため池生態系

こいの池の水温成層形成状況

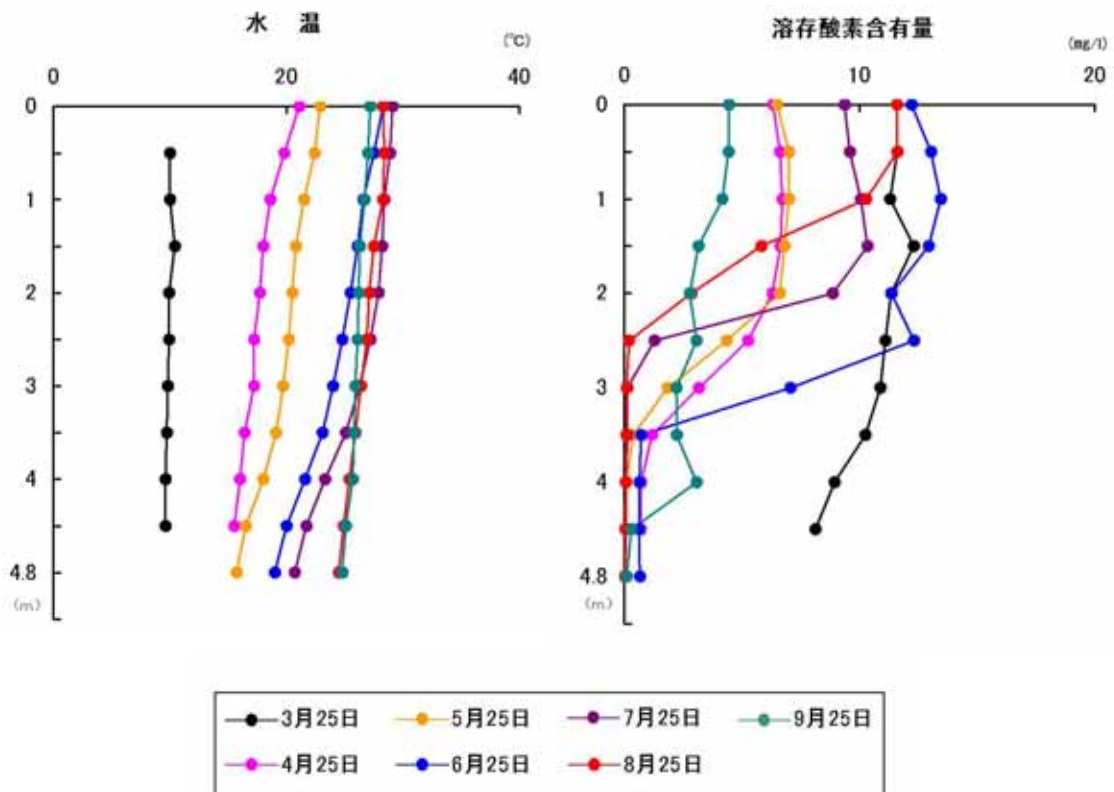


図 3 - 3 - 1 毎月 25 日の水温と DO の測定結果

第4章 会場間ゴンドラ

第1節 動物

1 繁殖鳥類

ア 調査地点

会場間ゴンドラルート及びその周辺域

イ 調査結果

表4-1-1 繁殖可能性ランク別確認地点数（延べ数）

調査年	追跡調査その2			モニタリング調査					
	工事前			存在影響時					
				工事中			供用時		
	平成14年度			平成16年度			平成17年度		
繁殖可能性ランク	5	4	3	5	4	3	5	4	3
カワセミ	0	1	0	0	0	0	0	0	0
コゲラ	0	0	2	0	1	7	0	1	4
キビタキ	0	0	0	0	0	6	0	2	1
オオルリ	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	3	0	1	13	0	3	5

：2005年日本国際博覧会に係る環境影響評価追跡調査（予測・評価）報告書（その2）（平成15年9月）

第5章 尾張旭駐車場

第1節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

尾張旭駐車場（尾張旭駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表5-1-1 尾張旭駐車場（一般環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
平成17年4月29日～5月5日	0.015	0.041	0.019	0.023	0.051	0.031

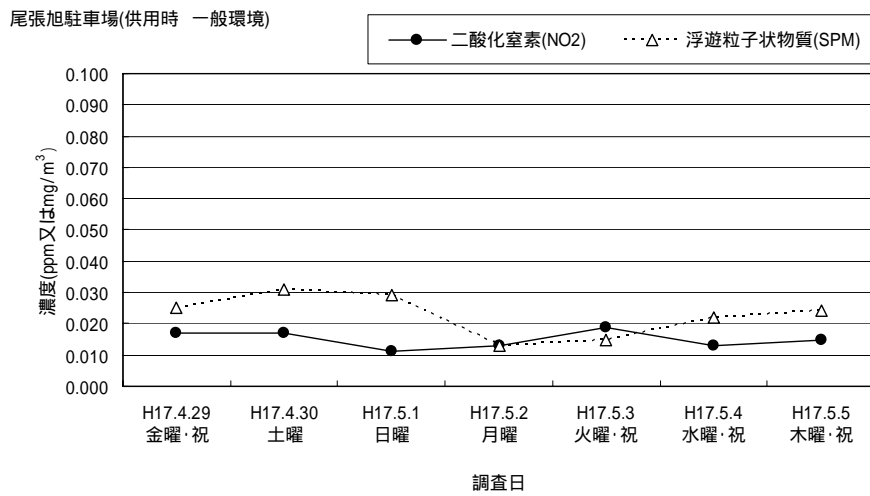


図5-1-1 尾張旭駐車場（一般環境）における大気質の調査結果(日平均値)

2 沿道環境

ア 調査地点

尾張旭駐車場周辺の2地点

イ 調査結果

表5-1-2 尾張旭駐車場(沿道環境)における大気質の調査結果(供用時)

調査項目		二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
		期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
尾張旭駐車場 (沿道環境 稲葉町)	平成17年4月29日~5月5日	0.019	0.052	0.022	0.024	0.058	0.033
尾張旭駐車場 (沿道環境 井田町)	平成17年4月29日~5月5日	0.024	0.044	0.028	0.036	0.068	0.048

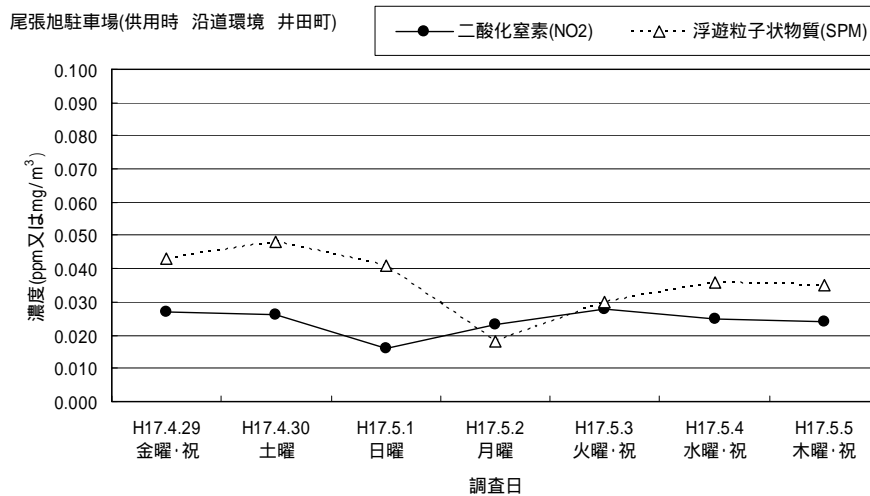
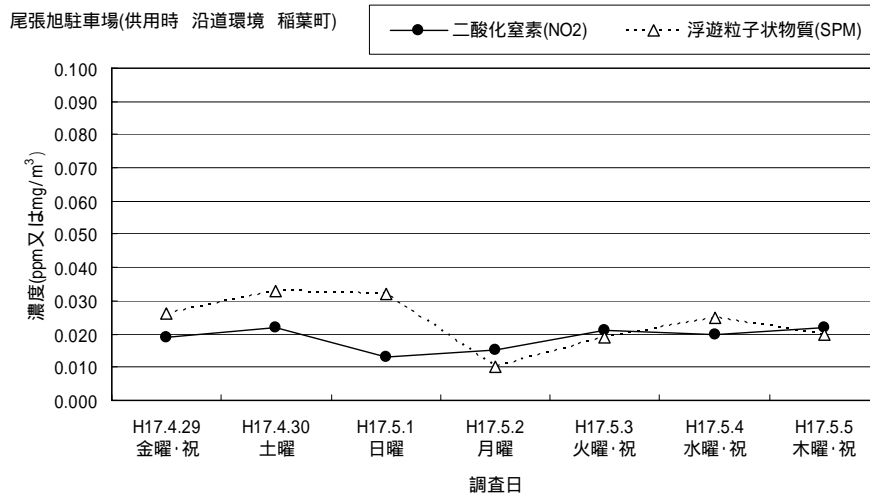


図5-1-2 尾張旭駐車場(沿道環境)における大気質の調査結果(日平均値)

第2節 騒音

1 一般環境

ア 調査地点

尾張旭駐車場（尾張旭駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表5-2-1 尾張旭駐車場（一般環境）における騒音の調査結果（供用時）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)	主音源
			昼間 (55)	
尾張旭駐車場 (一般環境)	市街化調整区域	平成17年 5月5日	47	駐車場

(注) 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

尾張旭駐車場周辺の2地点

イ 調査結果

表5-2-2 自動車交通騒音（LAeq）の調査結果

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値(dB) (要請限度値(dB))	調査時期	等価騒音レベルLAeq (dB)
				昼間
尾張旭駐車場 (沿道環境 稲葉町)	市街化調整 区域	県道上半田川 名古屋線 昼間：70 (75)	平成17年 5月5日	67
尾張旭駐車場 (沿道環境 井田町)	市街化調整 区域	県道上半田川 名古屋線 昼間：70 (75)	平成17年 5月5日	66

(注)1.時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とした。

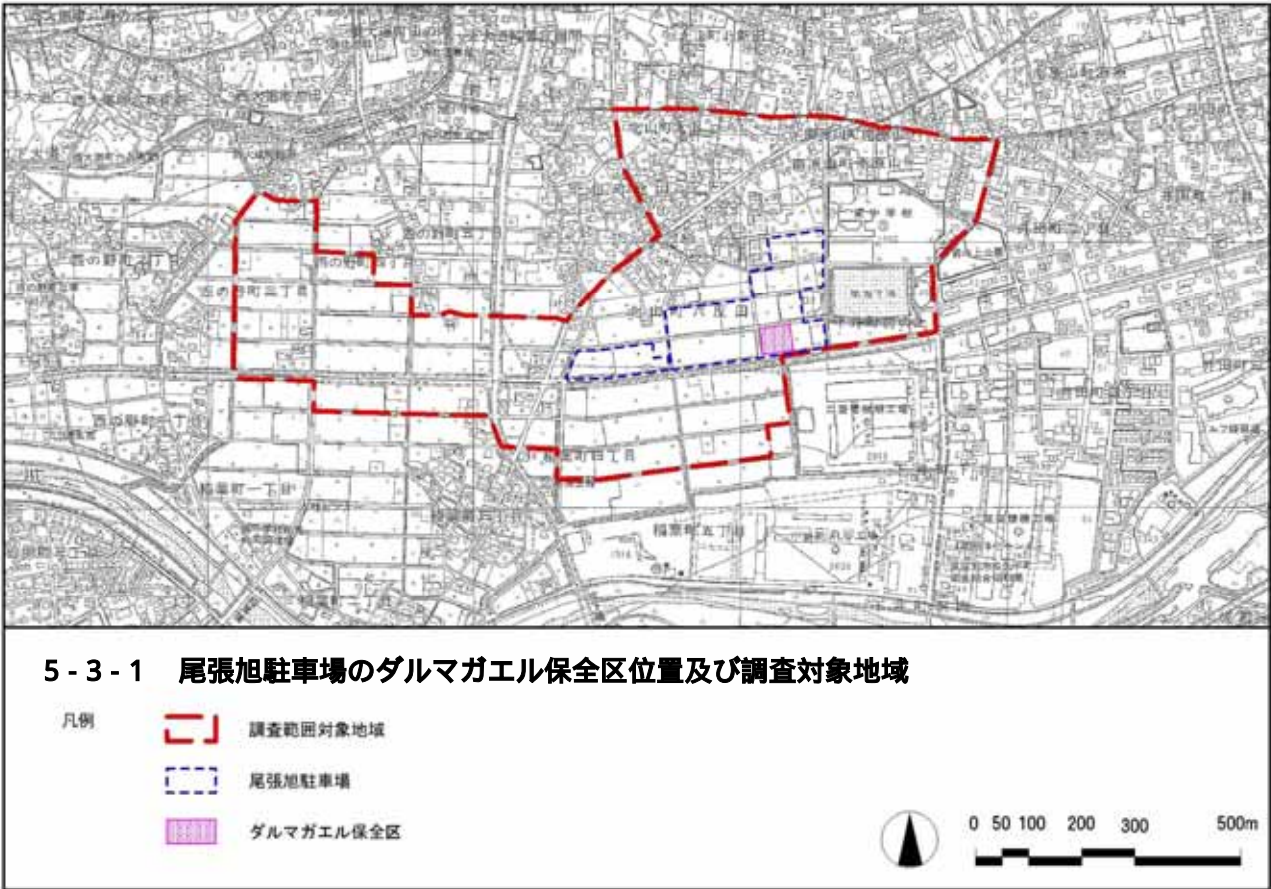
2.対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示す。

3.「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。

第3節 動物

1 ダルマガエル

ア 調査地点



イ 調査結果

表5-3-1 ダルマガエルの確認状況の変化

調査地域	追跡調査その3	モニタリング調査		
	工事前	存在影響時		
		工事中	供用時	
	平成15年度	平成16年度		平成17年度
10月	5月	10月	5月	
尾張旭駐車場	132 個体	191 個体	-	-
保全区	-	-	71 個体*	41 個体*
周辺域	99 個体	286 個体	150 個体	546 個体

*：保全区内には工事前の平成16年5月（モニタリング調査実施後）に、地元小学生の協力により、2,413 個体のカエル類（ウシガエルを除いたダルマガエル以外のカエル類も含む）を保全区に移入した。その後、移入は行っていない。

第6章 長久手駐車場（旧名：長久手インター駐車場）

第1節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

長久手駐車場（長久手駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表6-1-1 長久手駐車場（一般環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査時期	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
平成17年4月29日～5月5日	0.015	0.043	0.021	0.030	0.066	0.042

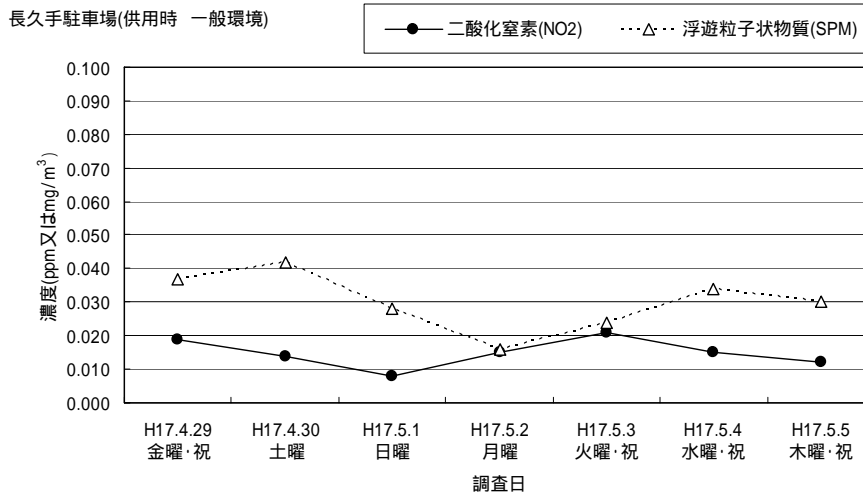


図6-1-1 長久手駐車場（一般環境）における大気質の調査結果(日平均値)

2 沿道環境

ア 調査地点

長久手駐車場周辺の2地点

イ 調査結果

表6-1-2 長久手駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査地点及び調査時期		二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
		期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
長久手駐車場 (沿道環境 長湫)	平成17年4月29日～5月5日	0.021	0.051	0.029	0.032	0.075	0.043
長久手駐車場 (沿道環境 岩作)	平成17年4月29日～5月5日	0.017	0.044	0.021	0.035	0.078	0.046

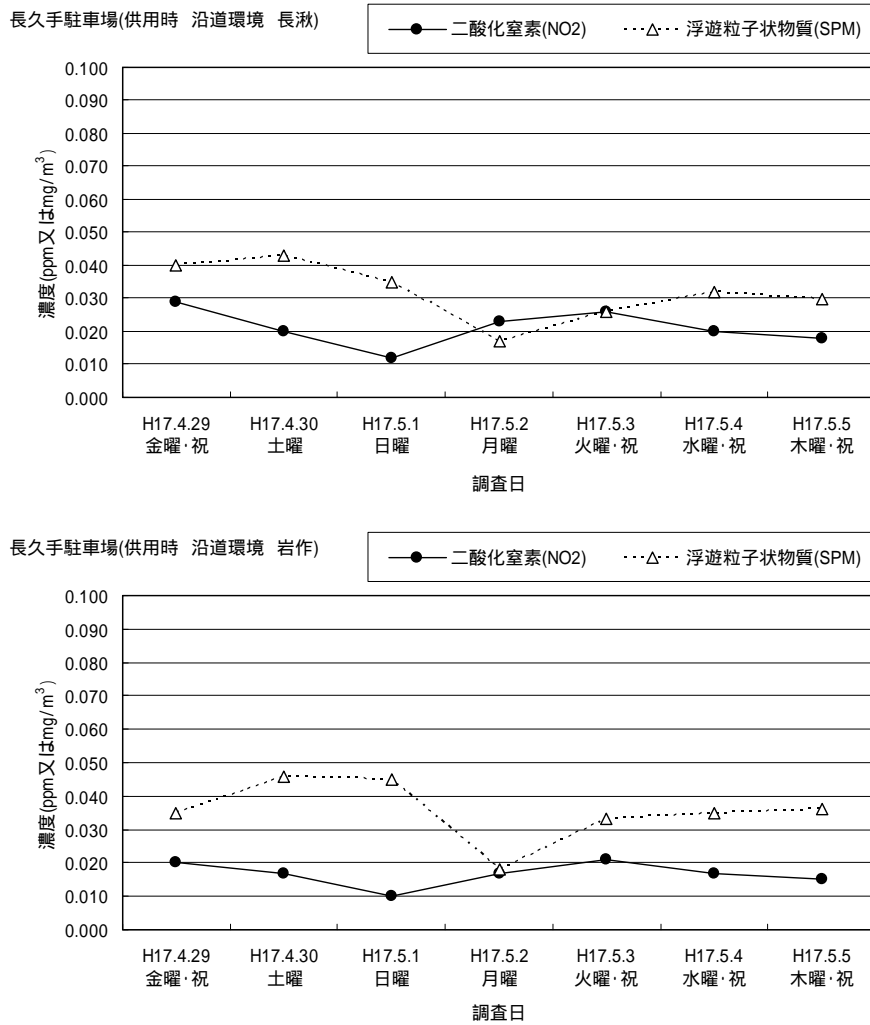


図 6 - 1 - 2 長久手駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果(日平均値)

第2節 騒音

1 一般環境

ア 調査地点

長久手駐車場（長久手駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表6-2-1 長久手駐車場（一般環境）における騒音の調査結果（供用時）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)	主音源
			昼間 (55)	
長久手駐車場 (一般環境)	市街化調整区域	平成17年 5月5日	45	自動車

(注) 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

長久手駐車場周辺の2地点

イ 調査結果

表6-2-2 自動車交通騒音（LAeq）の調査結果

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値(dB) (要請限度値(dB))	調査時期	等価騒音レベルLAeq (dB)
				昼間
長久手駐車場 (沿道環境 長湫)	工業地域	主要地方道 力石名古屋線 昼間：70 (75)	平成17年 5月5日	65
長久手駐車場 (沿道環境 岩作)	第1種住居 地域	主要地方道 春日井長久手線 昼間：70 (75)	平成17年 5月5日	63

(注)1. 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とした。

2. 対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示す。

3. 「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。

第3節 水質

1 放流先河川の水質

ア 調査地点

長久手駐車場からの流出水下流の香桶川

イ 調査結果

表 6 - 3 - 1 健康項目の調査結果

(単位 : mg/)

調査項目	調査地点	環境基準値
	香 桶 川 H17.5.8	
カドミウム	0.001	0.01mg/ 以下
全シアン	検出されない	検出されないこと
鉛	0.005 未満	0.01mg/ 以下
六価クロム	0.04 未満	0.05mg/ 以下
砒素	0.005 未満	0.01mg/ 以下
総水銀	0.0005 未満	0.0005mg/ 以下
アルキル水銀	検出されない	検出されないこと
PCB	検出されない	検出されないこと
ジクロロメタン	0.002 未満	0.02mg/ 以下
四塩化炭素	0.0002 未満	0.002mg/ 以下
1,2-ジクロロエタン	0.0004 未満	0.004mg/ 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.002 未満	0.02mg/ 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.004 未満	0.04mg/ 以下
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005 未満	1mg/ 以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.0006 未満	0.006mg/ 以下
トリクロロエチレン	0.001 未満	0.03mg/ 以下
テトラクロロエチレン	0.0005 未満	0.01mg/ 以下
1,3-ジクロロプロペン	0.0002 未満	0.002mg/ 以下
チウラム	0.0006 未満	0.006mg/ 以下
シマジン	0.0003 未満	0.003mg/ 以下
チオベンカルブ	0.002 未満	0.02mg/ 以下
ベンゼン	0.001 未満	0.01mg/ 以下
セレン	0.001 未満	0.01mg/ 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.8	10mg/ 以下
ふっ素	0.2	0.8mg/ 以下
ほう素	0.1 未満	1mg/ 以下

表 6 - 3 - 2 生活環境項目及びその他の項目調査結果

調査項目及び単位 調査地点	pH	BOD	SS	DO	大腸菌群数	全窒素	全燐	n-亜硝酸抽出物質	全亜鉛	流量
	-	mg/	mg/	mg/	MPN/100m	mg/	mg/	mg/	mg/	m ³ /s
香桶川 (H17.5.8)	6.8	3.1	9	7.4	3.3 × 10 ⁴	2.57	0.190	0.5未満	0.039	0.051

表 6 - 3 - 3 栄養塩類等調査結果

調査項目及び単位 調査地点	アンモニア性窒素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	オルトリン酸態燐	アルカリ度	TOC	クロロフィルa
	mg/	mg/	mg/	mg/	mgCaCO ₃ /	mg/	μg/
香桶川 (H17.5.8)	1.00	0.11	0.7	0.075	56	3.5	2.7

第4節 動物

1 カヤネズミ

ア 調査地点

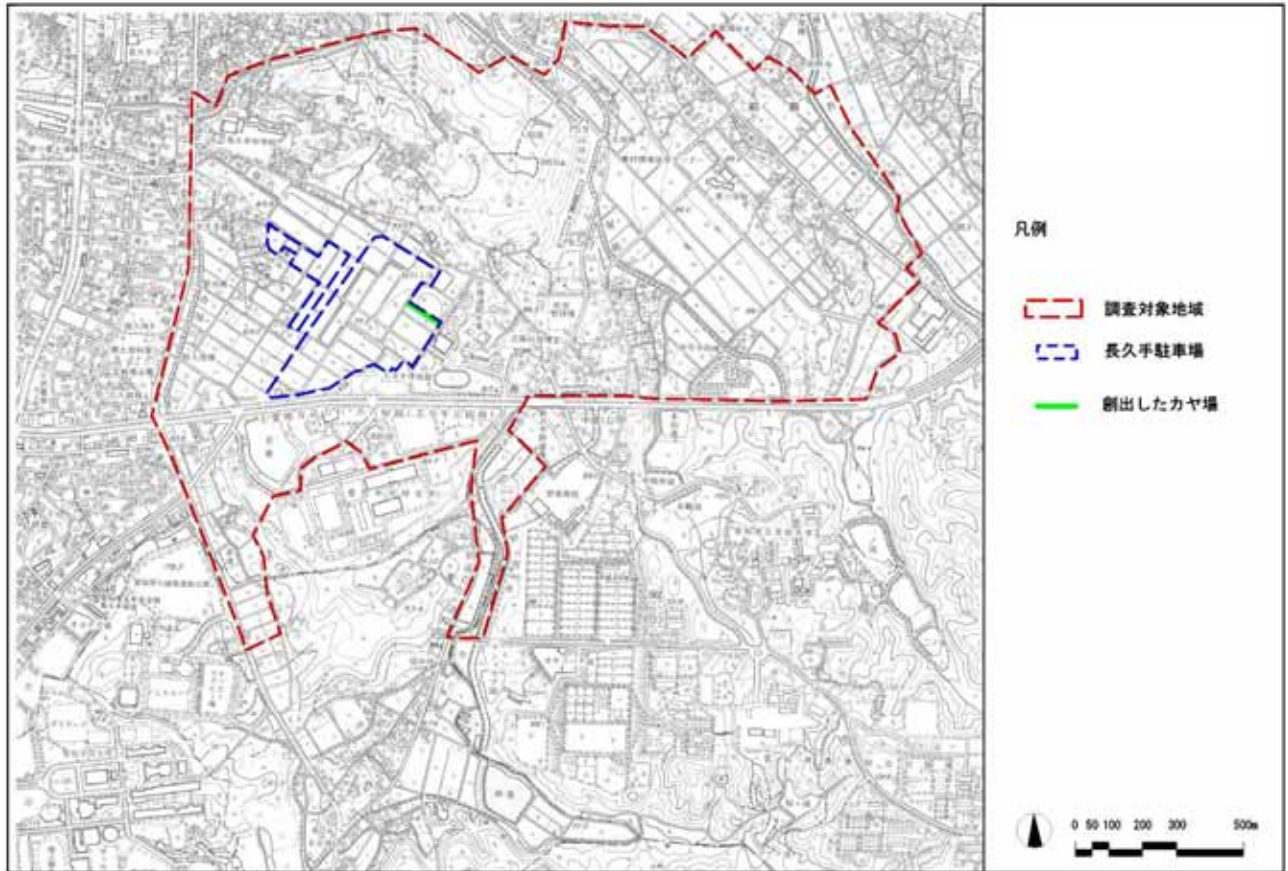


図6-4-1 長久手駐車場カヤネズミのカヤ場創出位置及び調査対象地域

イ 調査結果

表6-4-1 カヤネズミの巣の確認数

	追跡調査その3	モニタリング調査		
	工事前	工事中		供用時
	平成14～15年度	平成16年度		平成17年度
		7月	10月	7月
駐車場内	4	-	-	-
カヤ場	-	1	-	-
周辺域	6	11	9	28

2 ツマグロキチョウ

ア 調査地点

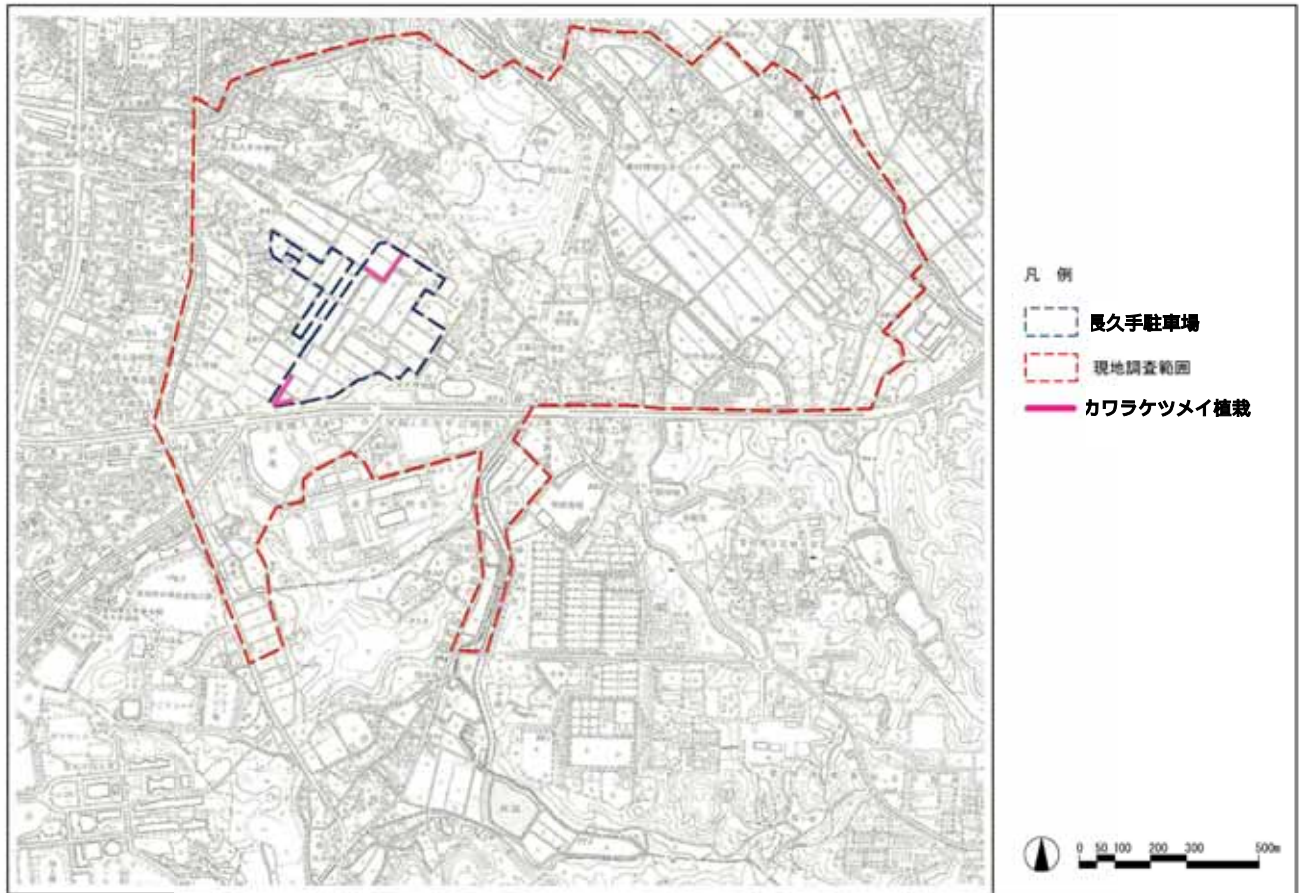


図 6 - 4 - 2 長久手駐車場カワラケツメイ植栽位置及びツマグロキチョウ調査対象地域

イ 調査結果

表 6 - 4 - 2 ツマグロキチョウ成虫調査結果の比較

	平成 15 年度	平成 16 年度		平成 17 年度
	10 月	5 月	10 月	5 月
駐車場内	6	-	-	0
駐車場内調整池 法面	-	-	2	0
周辺域	6	8	33	3

注) 数値は確認延べ個体数を示す。

第7章 ながくて南駐車場

第1節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

ながくて南駐車場（ながくて南駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表7-1-1 ながくて南駐車場（一般環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査時期	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
平成17年4月29日～5月5日	0.015	0.049	0.022	0.036	0.067	0.046

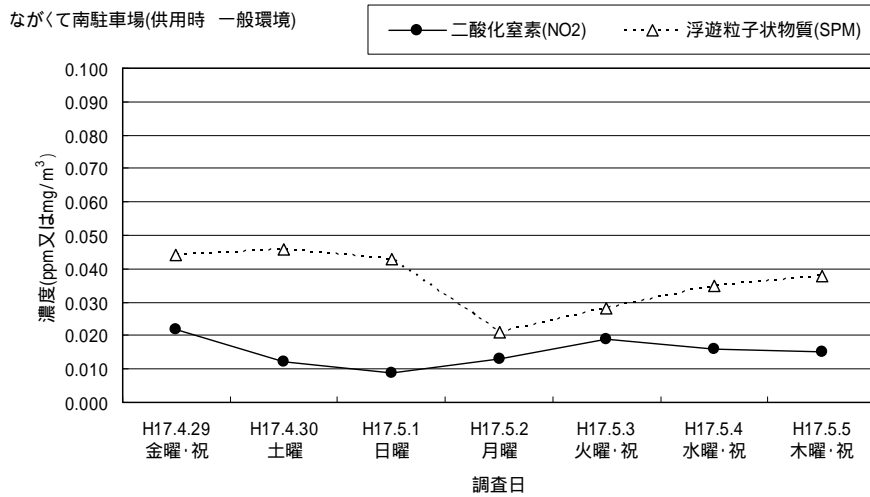


図7-1-1 ながくて南駐車場（一般環境）における大気質の調査結果(日平均値)

2 沿道環境

ア 調査地点

ながくて南駐車場周辺の1地点

イ 調査結果

表7-1-2 ながくて南駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目		二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
		期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
ながくて南駐車場 (沿道環境)	平成17年4月29日～5月4日、8日	0.028	0.055	0.038	0.035	0.083	0.045

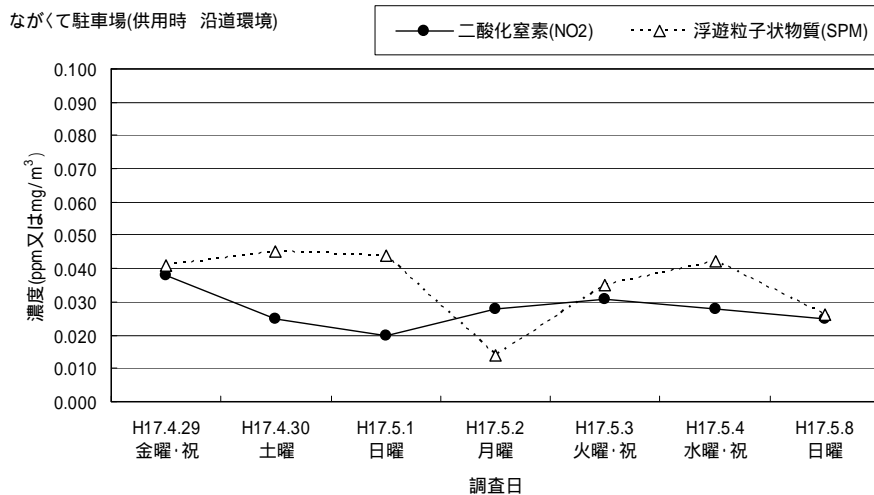


図7-1-2 ながくて南駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果(日平均値)

第2節 騒音

1 一般環境

ア 調査地点

ながくて南駐車場（ながくて南駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表7-2-1 ながくて南駐車場（一般環境）における騒音の調査結果（供用時）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)	主音源
			昼間 (55)	
ながくて南駐車場 （一般環境）	第1種住居地域	平成17年 5月5日	47	自動車

(注) 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

ながくて南駐車場周辺の1地点

イ 調査結果

表7-2-2 自動車交通騒音（LAeq）の調査結果

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値(dB) (要請限度値(dB))	調査時期	等価騒音レベルLAeq (dB)
				昼間
ながくて南駐車場 （沿道環境）	第1種住居 地域	市・町道 昼間：65 (75)	平成17年 5月5日	64

(注)1. 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とした。

2. 対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示す。

3. 「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。

第8章 三好駐車場（旧名：三好インター駐車場）

第1節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

三好駐車場（三好駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表8-1-1 三好駐車場（一般環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査時期	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
平成17年4月29日～5月5日	0.015	0.043	0.022	0.034	0.068	0.043

三好駐車場(供用時 一般環境)

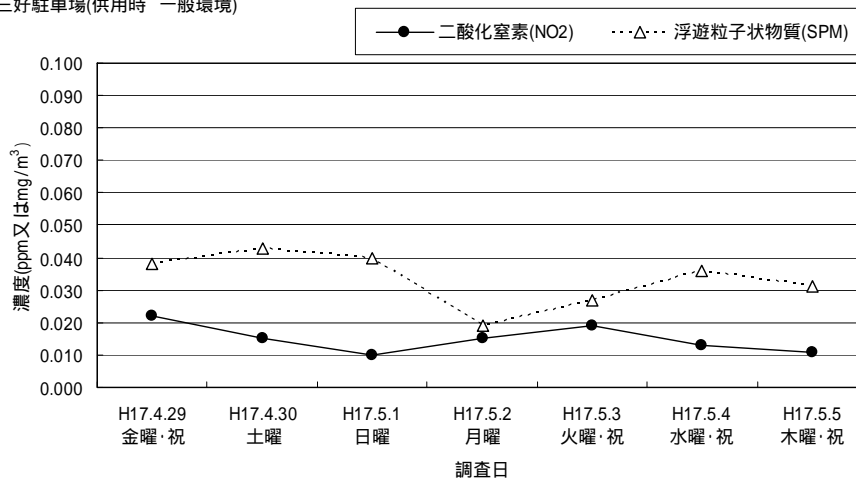


図8-1-1 三好駐車場（一般環境）における大気質の調査結果(日平均値)

2 沿道環境

ア 調査地点

調査地点は、三好駐車場周辺の1地点

イ 調査結果

表 8 - 1 - 2 三好駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目		二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
		期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
三好駐車場 (沿道環境)	平成 17 年 4 月 29 日 ~ 5 月 5 日	0.016	0.043	0.021	0.040	0.096	0.054

三好駐車場(供用時 沿道環境)

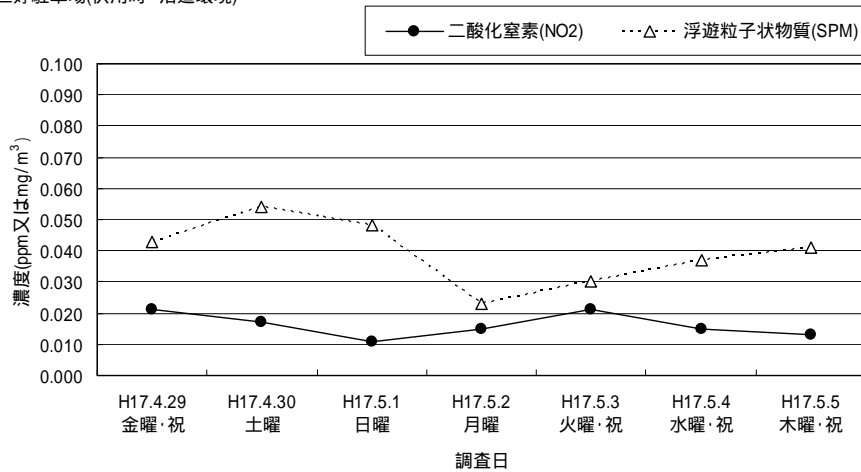


図 8 - 1 - 2 三好駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果(日平均値)

第2節 騒音

1 一般環境

ア 調査地点

三好駐車場（三好駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表8-2-1 三好駐車場（一般環境）における騒音の調査結果（供用時）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)	主音源
			昼間 (55)	
三好駐車場 (一般環境)	第1種住居地域	平成17年 5月5日	45	自動車

(注) 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

三好駐車場周辺の1地点

イ 調査結果

表8-2-2 自動車交通騒音（LAeq）の調査結果

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値(dB) (要請限度値(dB))	調査時期	等価騒音レベルLAeq (dB)
				昼間
三好駐車場 (沿道環境)	第1種低層住 居専用地域	都市計画道路上 伊保知立 バイパス線 昼間：70 (70)	平成17年 5月5日	62

(注)1. 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とした。

2. 対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示す。

3. 「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。

第9章 藤岡駐車場（旧名：藤岡インター駐車場）

第1節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

藤岡駐車場（藤岡駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表9-1-1 藤岡駐車場（環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査時期	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
平成17年4月29日～5月5日	0.007	0.022	0.009	0.025	0.077	0.044

藤岡駐車場(供用時 一般環境)

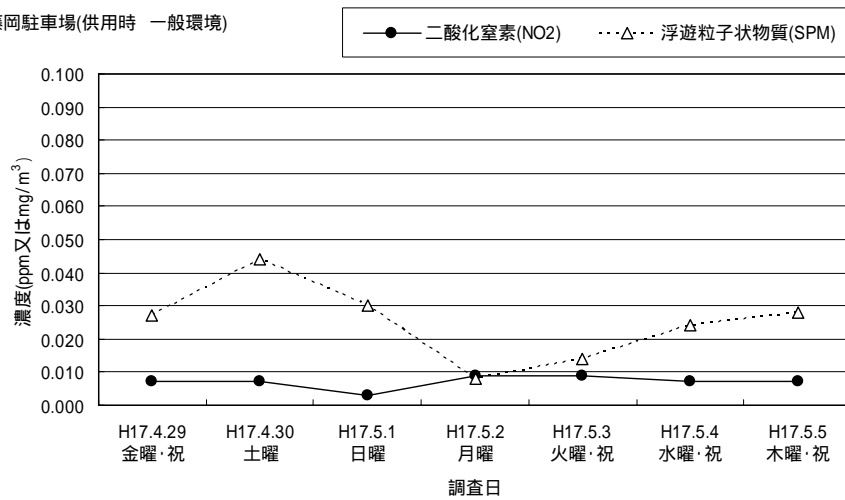


図9-1-1 藤岡駐車場（一般環境）における大気質の調査結果(日平均値)

2 沿道環境

ア 調査地点

藤岡駐車場周辺の1地点

イ 調査結果

表9-1-2 藤岡駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目		二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
		期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
藤岡駐車場 (沿道環境)	平成17年4月29日～5月5日	0.010	0.036	0.013	0.032	0.072	0.045

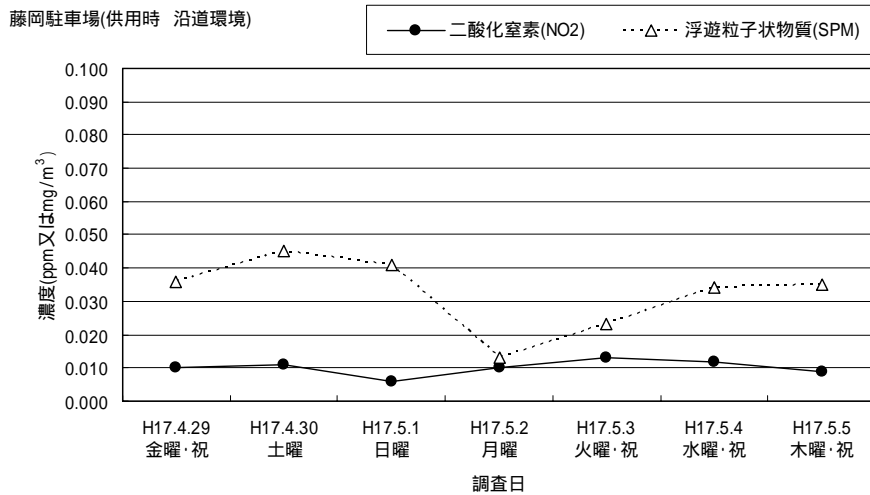


図9-1-2 藤岡駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果(日平均値)

第2節 騒音

1 一般環境

ア 調査地点

藤岡駐車場（藤岡駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表9-2-1 藤岡駐車場（一般環境）における騒音の調査結果（供用時）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)	主音源
			昼間 (55)	
藤岡駐車場 (一般環境)	市街化調整区域	平成17年 5月5日	45	駐車場

(注) 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

藤岡駐車場周辺の1地点

イ 調査結果

表9-2-2 自動車交通騒音（LAeq）の調査結果

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値(dB) (要請限度値(dB))	調査時期	等価騒音レベルLAeq (dB)
				昼間
藤岡駐車場 (沿道環境)	市街化調整 区域	市道 昼間：65 (75)	平成17年 5月5日	55

(注)1.時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とした。

2.対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示す。

3.「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。

第3節 水質

1 放流先河川の水質

ア 調査地点

藤岡駐車場からの流出水下流の西中山川

イ 調査結果

表9-3-1 健康項目の調査結果

(単位 : mg/)

調査項目	調査地点	環境基準値
	西 中 山 川 H17.5.8	
カドミウム	0.001 未満	0.01mg/ 以下
全シアン	検出されない	検出されないこと
鉛	0.005 未満	0.01mg/ 以下
六価クロム	0.02 未満	0.05mg/ 以下
砒素	0.005 未満	0.01mg/ 以下
総水銀	0.0005 未満	0.0005mg/ 以下
アルキル水銀	検出されない	検出されないこと
PCB	検出されない	検出されないこと
ジクロロメタン	0.002 未満	0.02mg/ 以下
四塩化炭素	0.0002 未満	0.002mg/ 以下
1,2-ジクロロエタン	0.0004 未満	0.004mg/ 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.002 未満	0.02mg/ 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.004 未満	0.04mg/ 以下
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005 未満	1mg/ 以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.0006 未満	0.006mg/ 以下
トリクロロエチレン	0.001 未満	0.03mg/ 以下
テトラクロロエチレン	0.0005 未満	0.01mg/ 以下
1,3-ジクロロプロペン	0.0002 未満	0.002mg/ 以下
チウラム	0.0006 未満	0.006mg/ 以下
シマジン	0.0003 未満	0.003mg/ 以下
チオベンカルブ	0.002 未満	0.02mg/ 以下
ベンゼン	0.001 未満	0.01mg/ 以下
セレン	0.001 未満	0.01mg/ 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	2.2	10mg/ 以下
ふっ素	0.1	0.8mg/ 以下
ほう素	0.1 未満	1mg/ 以下

表 9 - 3 - 2 生活環境項目及びその他の項目調査結果

調査項目及び単位 調査地点	pH	BOD	SS	DO	大腸菌群数	全窒素	全磷	n-4ヶ所抽出物質	全亜鉛	流量
	-	mg/	mg/	mg/	MPN/100m	mg/	mg/	mg/	mg/	m ³ /s
西中山川 (H17.5.8)	6.9	6.1	14	7.2	7.9 × 10 ⁴	5.80	0.481	0.5未満	0.008	0.024

表 9 - 3 - 3 栄養塩類等調査結果

調査項目及び単位 調査地点	アンモニア性窒素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	オルトリン酸態磷	アルカリ度	TOC	クロロフィルa
	mg/	mg/	mg/	mg/	mgCaCO ₃ /	mg/	μg/
西中山川(H17.5.8)	2.22	0.37	1.8	0.376	43	3.5	5.3

表 9 - 3 - 4 調査結果と予測結果との比較

調査項目	調査結果	予測結果	予測結果引用元
流量 (m ³ /s)	0.024	0.0413	追跡調査(予測・評価)報告書(その3)(H16.2)
BOD (mg/)	6.1	2.3	

(注)予測結果引用元は、今までに公表した予測結果のうち、最新のものを使用した。

BODが予測した結果に比べて比較的高い値を示しているので、西中山川へ流れ込む駐車場の浄化槽について調査したところ、浄化槽処理汚水量は処理能力の3割程度であり、博覧会開催中の浄化槽放流水のBODは3 mg/l程度以下であった。

表 9 - 3 - 5 浄化槽処理汚水量

月 日	浄化槽処理汚水量 (m ³ /日)
5月6日	6.6
5月7日	7.0
5月8日(調査日)	9.8
5月9日	10.6
5月10日	8.0

藤岡駐車場浄化槽放流水分析結果(BOD)

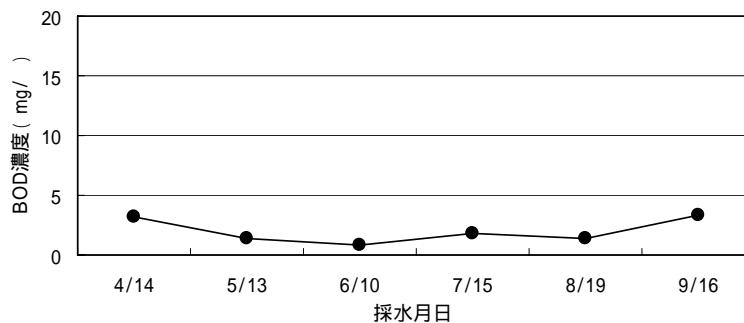


図 9 - 3 - 1 藤岡駐車場浄化槽放流水質調査結果

第4節 動物

1 ハッチョウトンボ

ア 調査地点

藤岡駐車場内保全湿地及びその周辺域

イ 調査結果

表9-4-1 ハッチョウトンボの個体数（延べ数）

調査年	追跡調査(その3)			モニタリング調査					
	平成14年度			平成16年度			平成17年度		
調査地点			計			計			計
藤岡駐車場	1	0	1	26	25	51 (66)	28	58	86 (105)

注1) 表中の()内の数字は、雌雄の判別ができなかった個体を含んだ個体数表す。

注2) 調査回数は以下のとおり。

平成14年度:8月1回 平成16年度:6月2回、7月1回 平成17年度:5月1回、6月1回、7月1回

第 10 章 名古屋空港駐車場

第 1 節 大気質等

1 一般環境

ア 調査地点

名古屋空港駐車場（名古屋空港駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表 10- 1 - 1 名古屋空港駐車場（一般環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査時期	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	期間 平均値	1 時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1 時間値 の最高値	日平均値の 最高値
平成 17 年 4 月 29 日 ~ 5 月 5 日	0.018	0.057	0.026	0.036	0.080	0.047

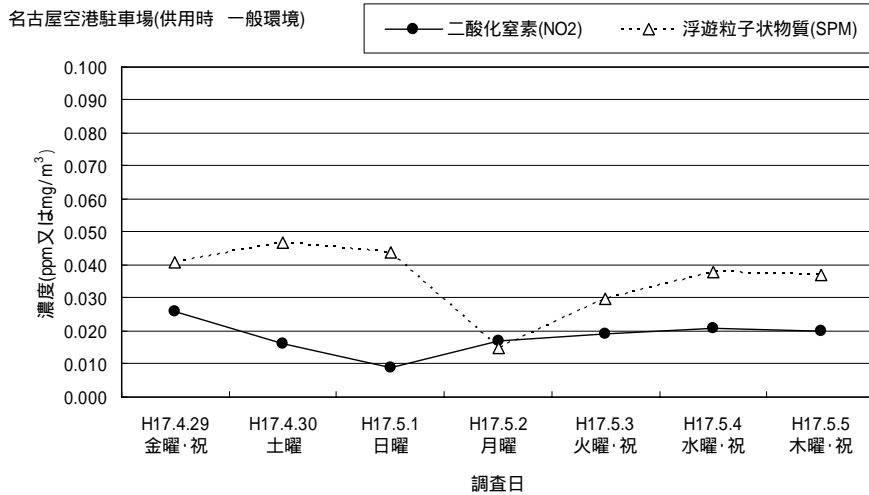


図 10- 1 - 1 名古屋空港駐車場（一般環境）における大気質の調査結果(日平均値)

2 沿道環境

ア 調査地点

名古屋空港駐車場周辺の2地点

イ 調査結果

表 10-1-2 名古屋空港駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果（供用時）

調査項目 調査地点及び調査時期		二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
		期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 最高値
名古屋空港駐車場 (沿道環境 豊場)	平成 17 年 4 月 29 日～5 月 5 日	0.020	0.056	0.030	0.033	0.076	0.045
名古屋空港駐車場 (沿道環境 青山)	平成 17 年 4 月 29 日～5 月 5 日	0.019	0.058	0.028	0.037	0.082	0.050

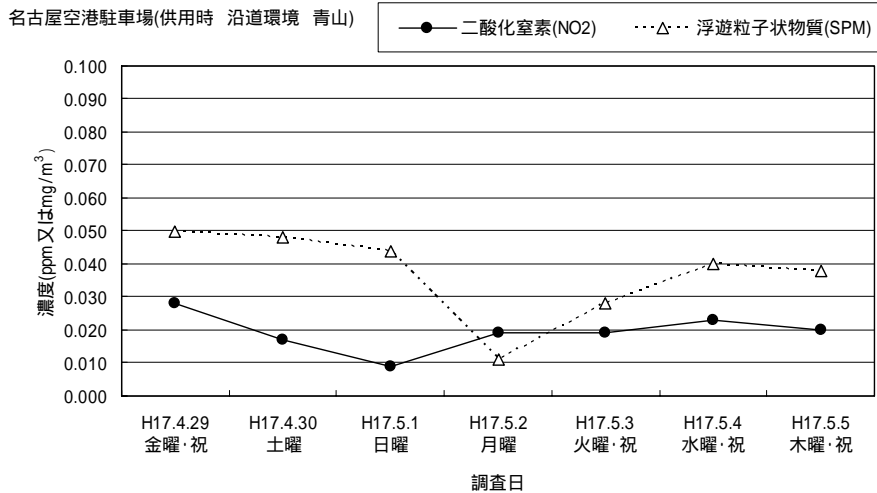
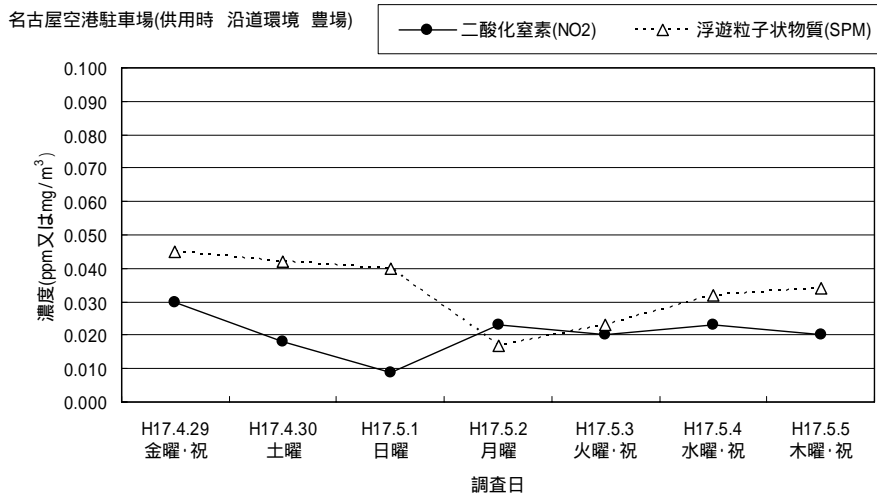


図 10-1-2 名古屋空港駐車場（沿道環境）における大気質の調査結果(日平均値)

第2節 騒音

1 一般環境

ア 調査地点

名古屋空港駐車場（名古屋空港駐車場（一般環境））

イ 調査結果

表 10-2-1 名古屋空港駐車場（一般環境）における騒音の調査結果（供用時）

調査地点	用途地域	調査時期	等価騒音レベル LAeq (dB)	主音源
			昼間 (55)	
名古屋空港駐車場 (一般環境)	市街化調整区域	平成17年 5月5日	49	自動車

(注) 時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とし、()内の数値は環境基準値を示す。

2 沿道環境

ア 調査地点

名古屋空港駐車場周辺の2地点

イ 調査結果

表 10-2-2 自動車交通騒音（LAeq）の調査結果

調査地点	用途地域	対象道路及び 環境基準値(dB) (要請限度値(dB))	調査時期	等価騒音レベルLAeq (dB)
				昼間
名古屋空港駐車場 (沿道環境 豊場)	近隣商業地域	一般県道 空港中央線 昼間：70 (75)	平成17年 5月5日	58
名古屋空港駐車場 (沿道環境 青山)	第一種住居地域	一般県道 名古屋豊山稲沢線 昼間：70 (75)	平成17年 5月5日	63

(注)1.時間の区分は、昼間を6時から22時までの間とした。

2.対象道路欄の数値の上段は環境基準値、下段の()内は要請限度値を示す。

3.「要請限度」とは、「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」で定める自動車騒音の限度をいう。